

明治何年地目變換地價據置年期明地價修正願

何郡町村大字

番字	等級	枚數	地目	反別	外内步	地價	地租	反增 別減	比 較 等 級	反 金 稅	登 錄	住 所 氏 名	合計					
													郡 村 地	田	畑			
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

田	畑	郡村 宅地			
△	△	△	△	△	△

(以下右ニ倣ヒ列記スヘシ)

右地價修正相成度候也

住所

年月日 知事宛 地主氏 名印

畑	
、	、
、	、
、	、
、	、
	新荒
、	、
、	、
、	、
、	、
、	、
、	、

(以下右ニ倣ヒ列記スヘシ)

右免租年期附與相成度候也

年月日
 知事宛
 住所
 地主氏
 名印

明治何年荒地免租繼年期附與願

何郡町村大字

字番	地目	反別	地價	地租	名稱	元年期	繼年期	住所	氏名
	田								
	畑								
合計									何筆

明治何年荒地免租年期明低價年期附願

何郡町村大字

番字 枚數	等級 地目	反別	內步	地價	地租	增減 反別	低價 元年期	附願 低價年期	登錄 住所	氏名	△何筆	△元	合計	△元	田
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

右低價年期附與相成度候也

畑	△元	△元					
		△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△

年 月 日
知 事 宛
住 所
地 主 氏 名 印

右地價修正相成度候也

百九十

住所

年月日

地主氏

名印

知事宛

第二十三號

明治何年何月 道路 墓地 用水路 溜池 井溝 公立 成二付免(除)租願 何郡町村大字

字番	地目	反別	外内步	地價	地租	月割免租	起月	反別地價地租	減登録	住所氏名
畑	荒地	、	、	、	、	、	、	、	、	何筆
畑	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
田	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
合計	畑	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	荒地	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	畑	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	据置	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	元	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	田	、	、	、	、	、	、	、	、	、

百九十一

	外
裂地册	

右免(除)租相成度候也

住所

年月日

地主氏

名印

知事宛

備考

一官有地成ハ右書ニ何々(種目)ニ付除租相成度ト記載スヘシ

明治何年何月何日 官有地(地下)下ニ付地價設定願

何郡町村大字

番 字	地 目	反 別	内 外	步 地	地 價	地 租	月 割	租 額	賦 租	起 月	何 月	反別比較等級			反 金	登 録	住 所	氏 名
												増	減	比 較				
	畑																	
	元																	
	畑																	
	元																	
	原																	
	野																	
	學																	
	校																	
	敷																	
	地																	
	郡																	
	宅																	
	地																	
	元																	
	合 計																	
	畑																	
	何 筆																	

郡村	宅地	原野
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、

右地價設定相成度候也

住所

年月日

知事宛

地主氏

名印

第二十五號

明治何年睦畔廢除地反別増減願

何郡何町村大字

番字	等級	枚數	地目	反別	内歩	地價	地租	増減		反金	登録	住所	氏名
								反別	地租				
			畑	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			田	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			合計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	何筆
			畑	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			田	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			合計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			畑	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			田	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			合計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			畑	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			田	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			合計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

右本年ヨリ反別増減相成度候也

百九十六

年月日 知事宛 住所 地主氏 名印

第二十六號

明治何年睡畔新設地反別増減願

何郡町村大字

番字	等級	地目	反別	内外步	地價	地租	増減	反金税	登錄	住所	氏名
畑	田	合計	畑	元	田	元	反別	地價	地租	増	減
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△
			△	△	△	△	△	△	△	△	△

右本年ヨリ反別増減相成度候也

百九十七

百九十八

年月日 知事宛 住所 地主氏 名印

第二十七號

明治何年土地分裂屆

何郡町村大字

番字		合	畑	畑	元	五番ノ一	五番	五番	反別	地價	地租	增		反別	地價	地租	減		反金	登錄	住所	氏	名	
枚	級											地目	反別				外	内						步
畑	田	計	畑	畑	元	田	田	元																
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

百九十九

右及御届候也

年月日
知事宛

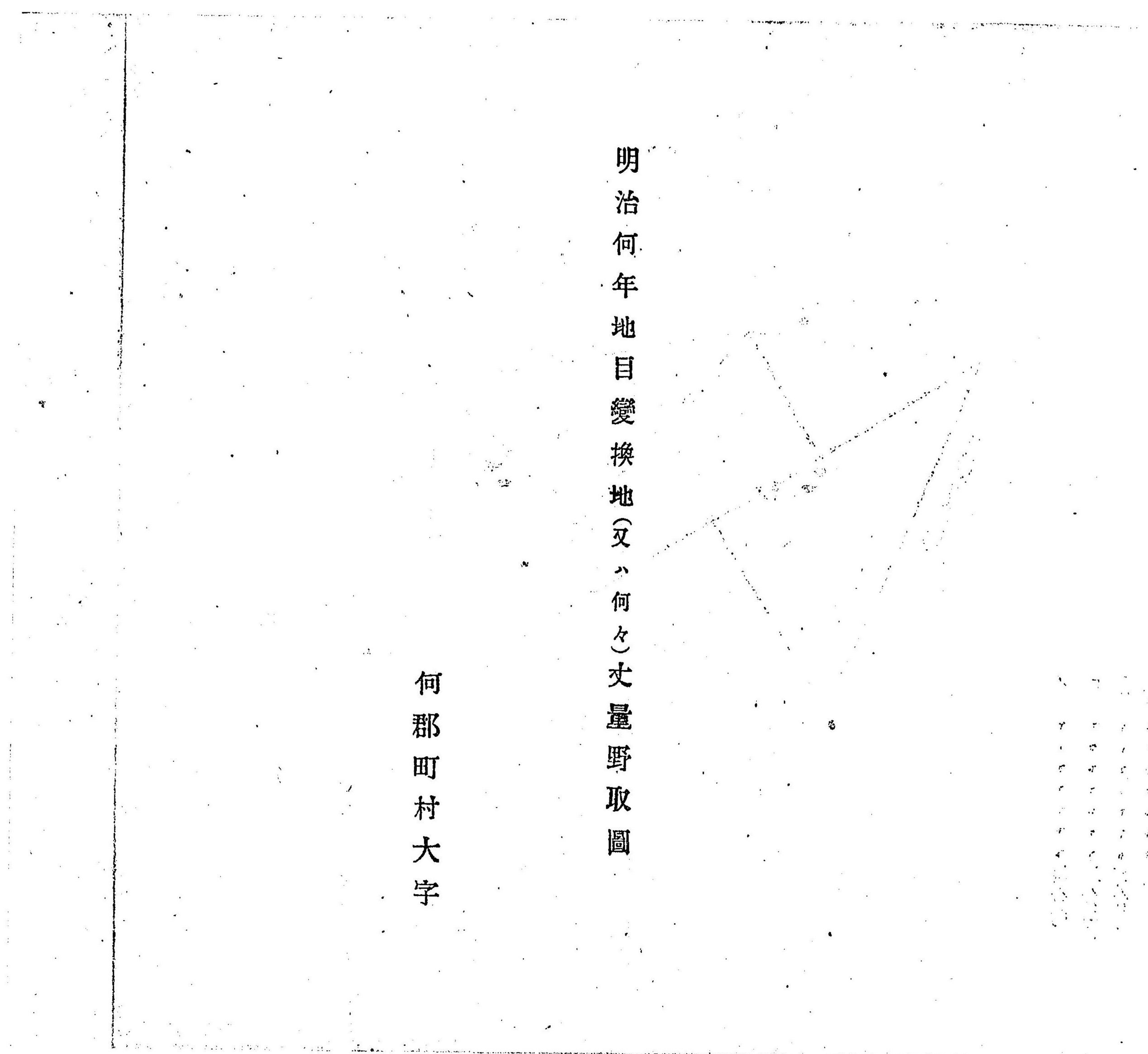
住所

地主氏

名印

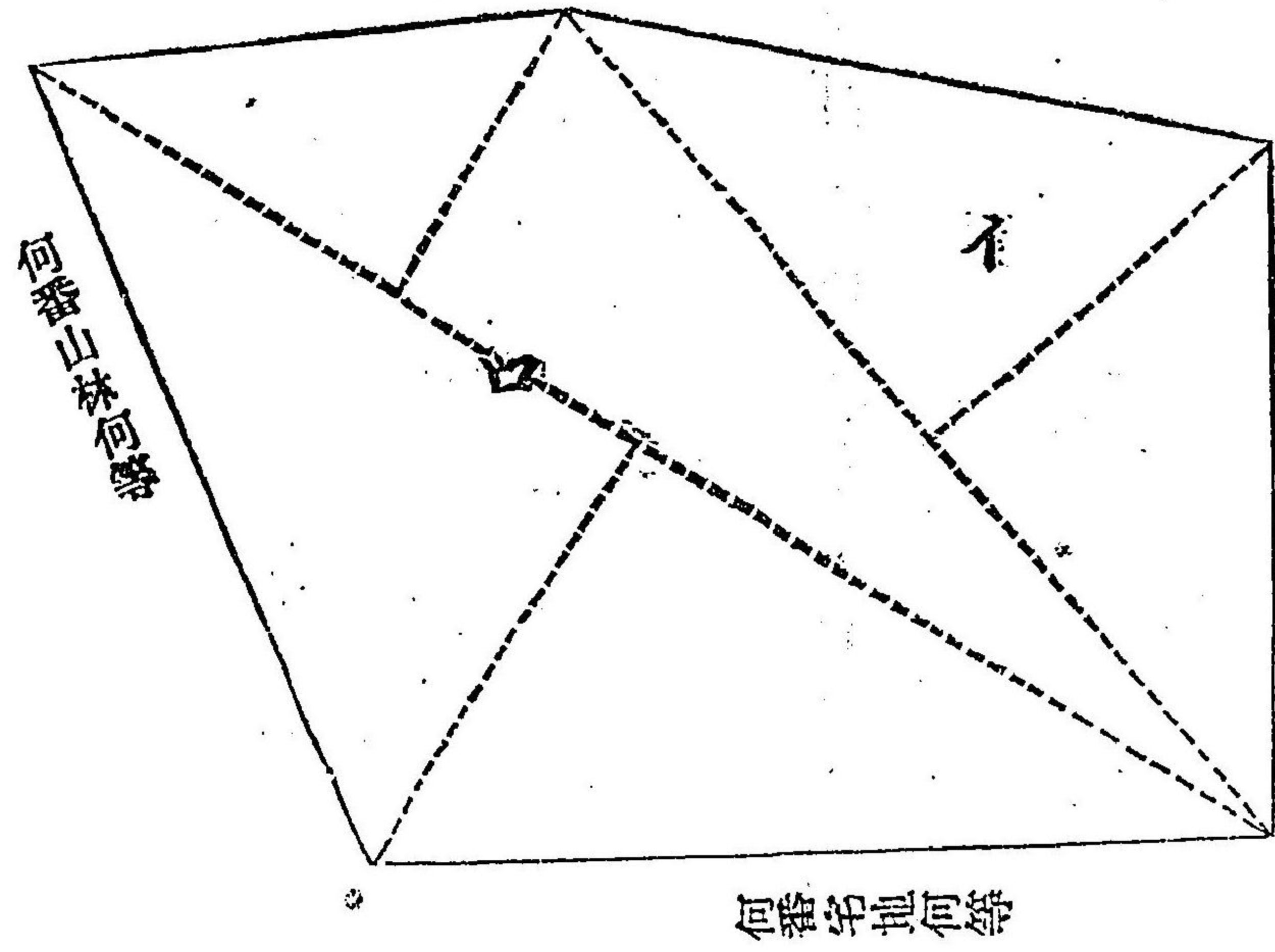
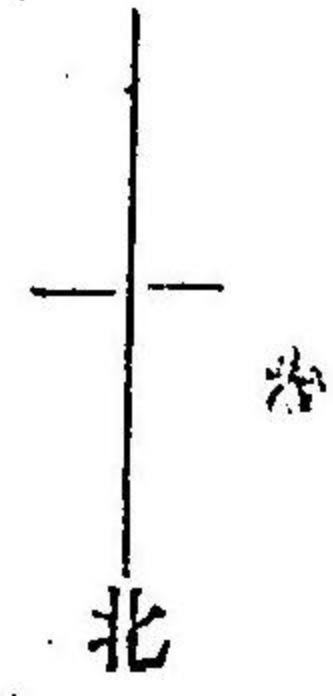
明治何年地目變換地(又ハ何々)丈量野取圖

何郡町村大字



字何 何番
一田何反步

地主 氏 名 印



(.....ハ朱線)

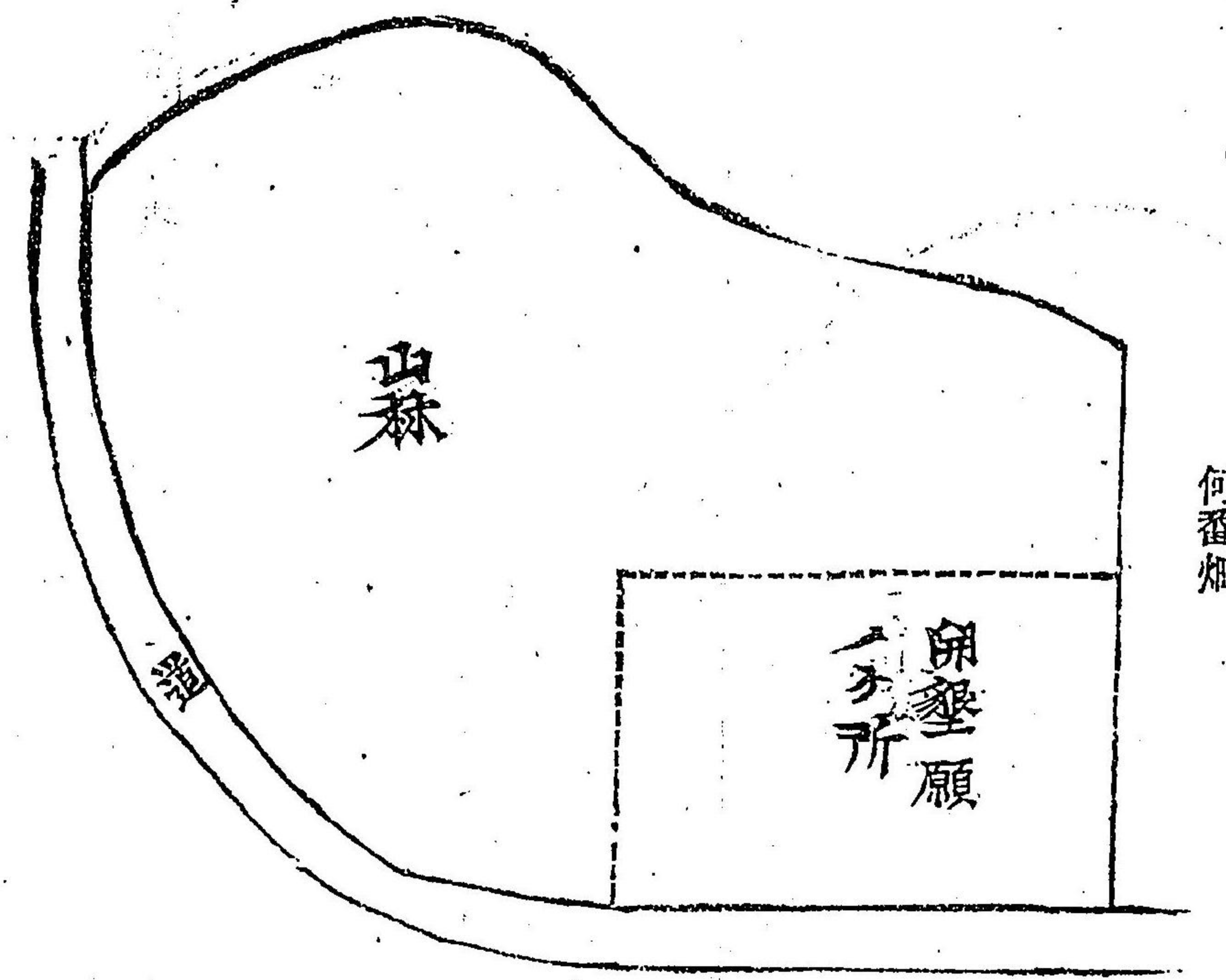
イ 坪合 勻
ロ 坪合 勻
合 坪合 勻
二除 坪

(合以下四角ツ)

字何 何番
一山林何反歩ノ内 何畝歩

地主 氏 名 印

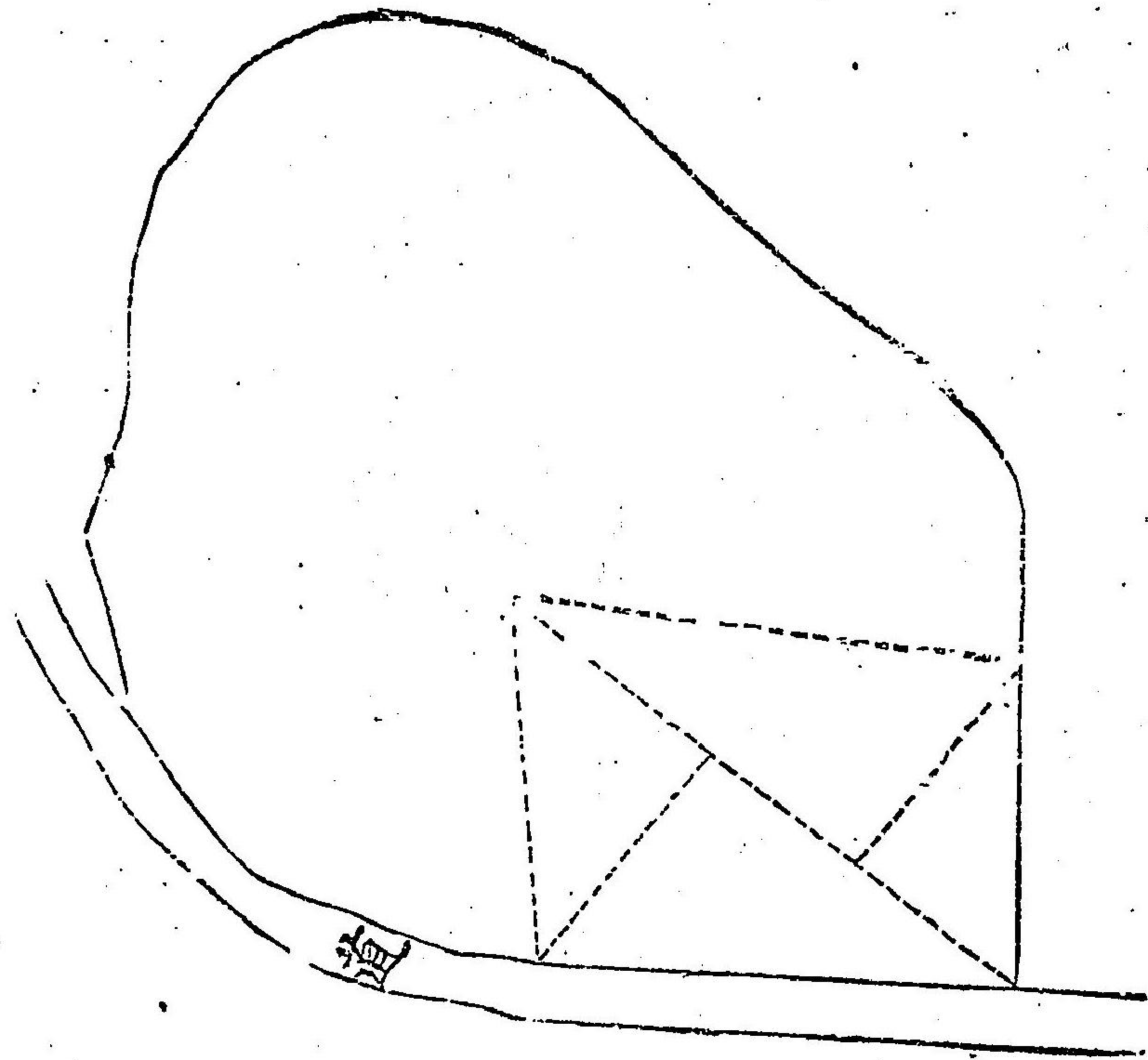
△一筆中ノ幾分開墾ノ例



字何 何番
元山林何反歩ノ内
一何何反歩

地主 氏 名印

△一筆中ノ幾部開墾成功ノ例



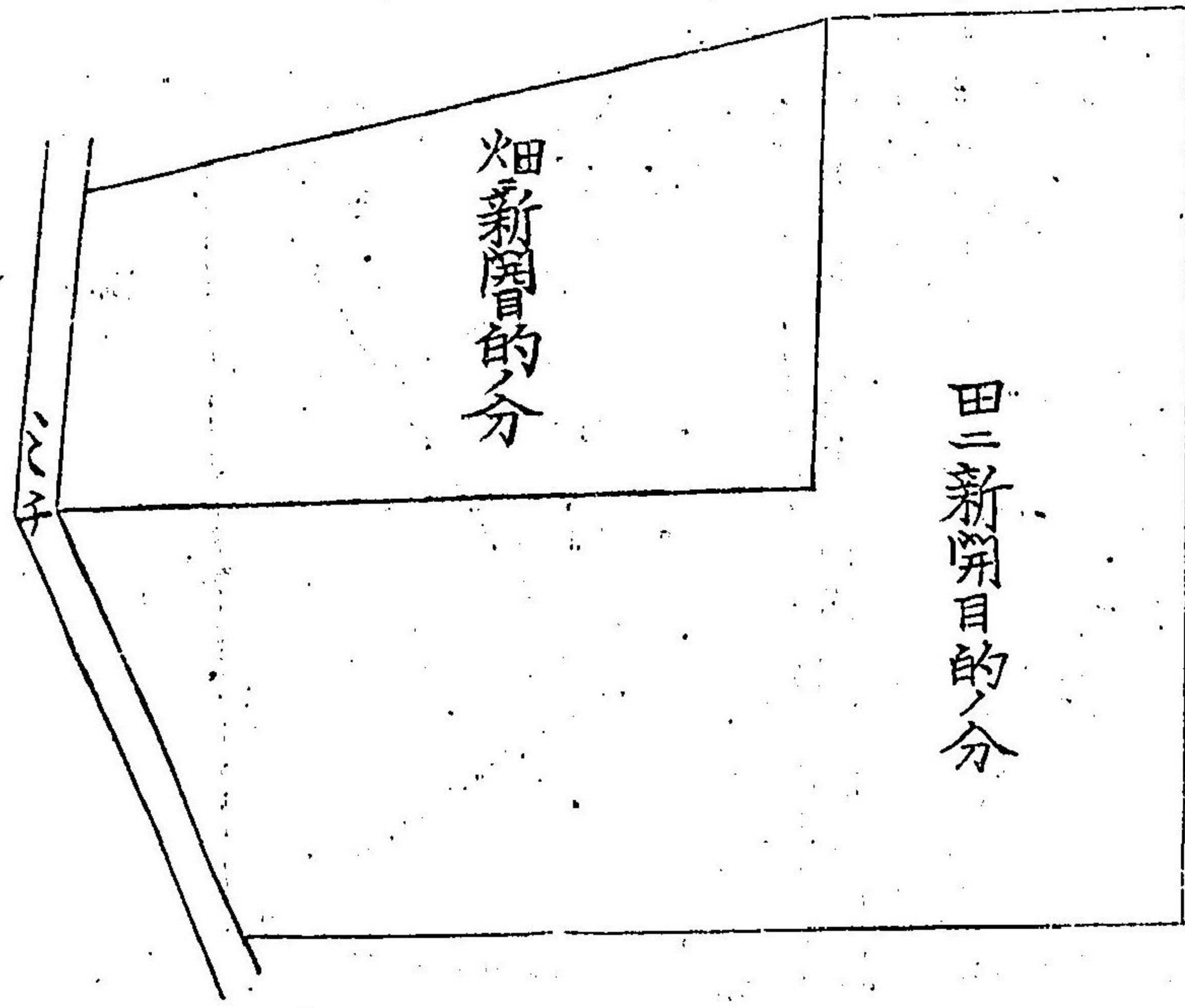
何坪何合何勺
二際何坪

字何 何番
一新開地何反步

地主 氏 名 印

△新開地繳下年期附與願ニ添付圖ノ例

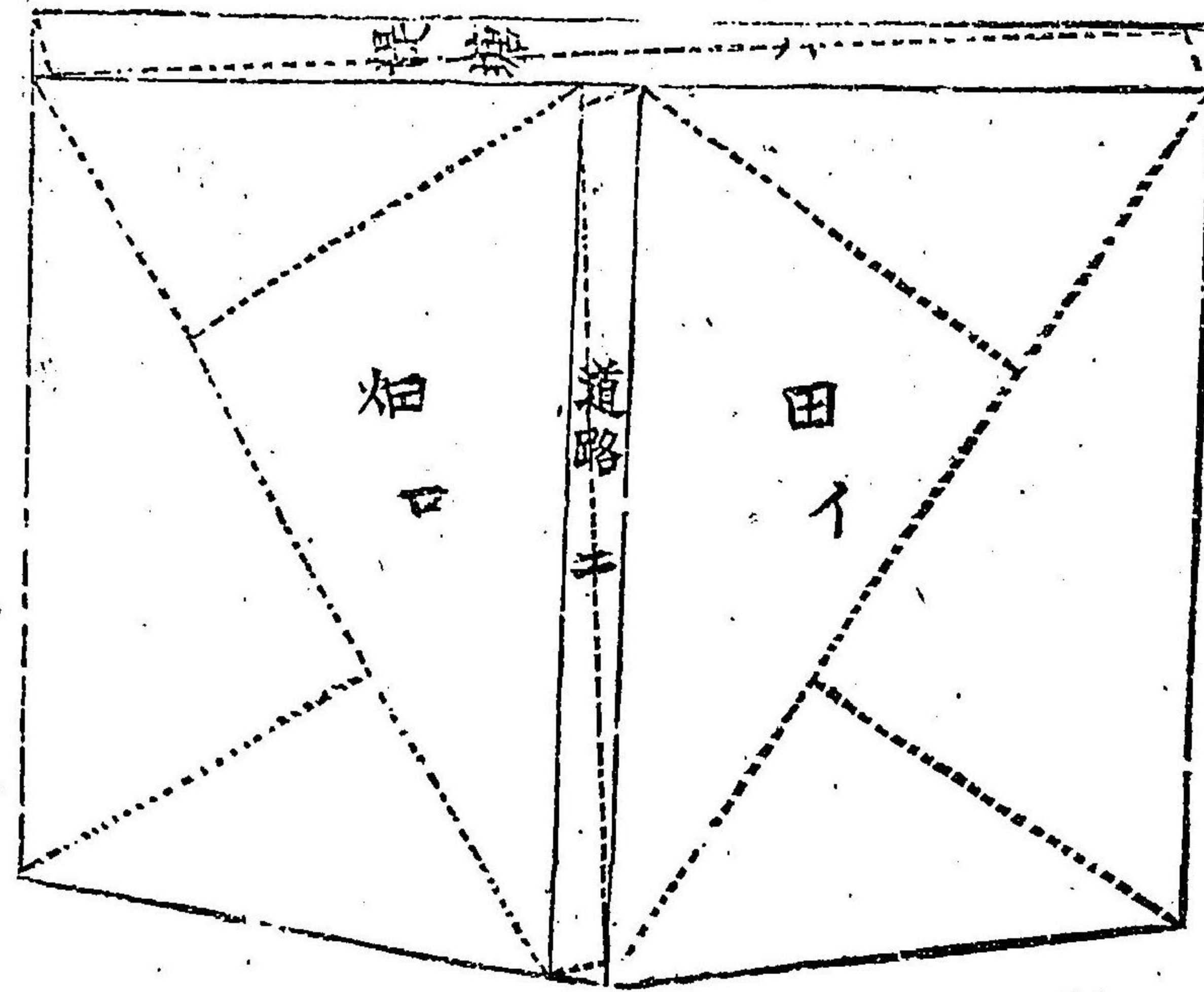
海



北

- 字何 何番
- 元反別何町步
- 一田反別何反步
- 一畑反別何反步
- 一道路何畝步
- 一堤塘何畝步

△新開地成功ノ例

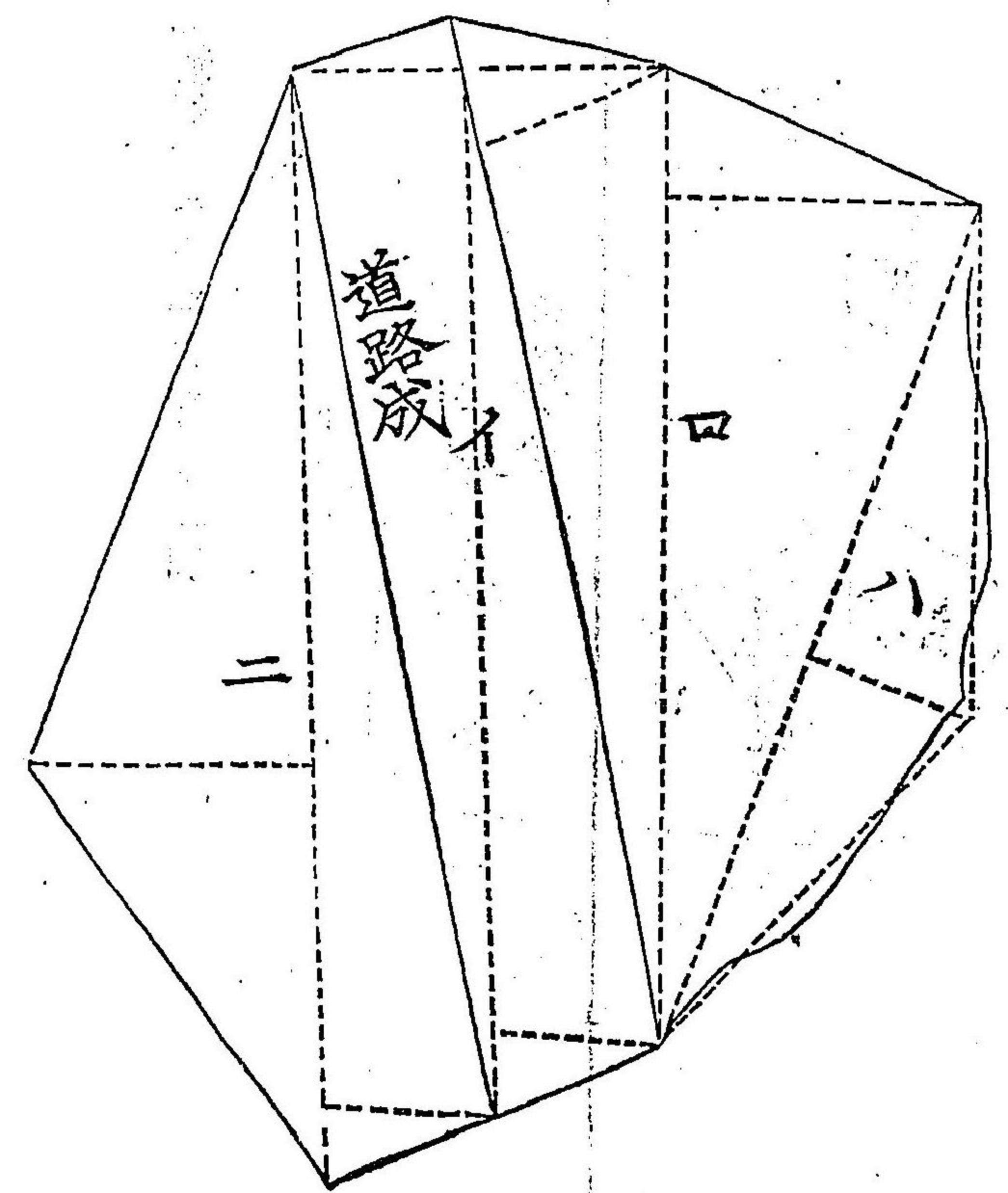


北

地主氏名印

- イ 二除 田
- ロ 二除 畑
- ハ 二除 道路
- ニ 二除 堤塘

北



△一等中ノ幾分道路成ノ例

計 = 六口
 二除 残地
 二除 道路

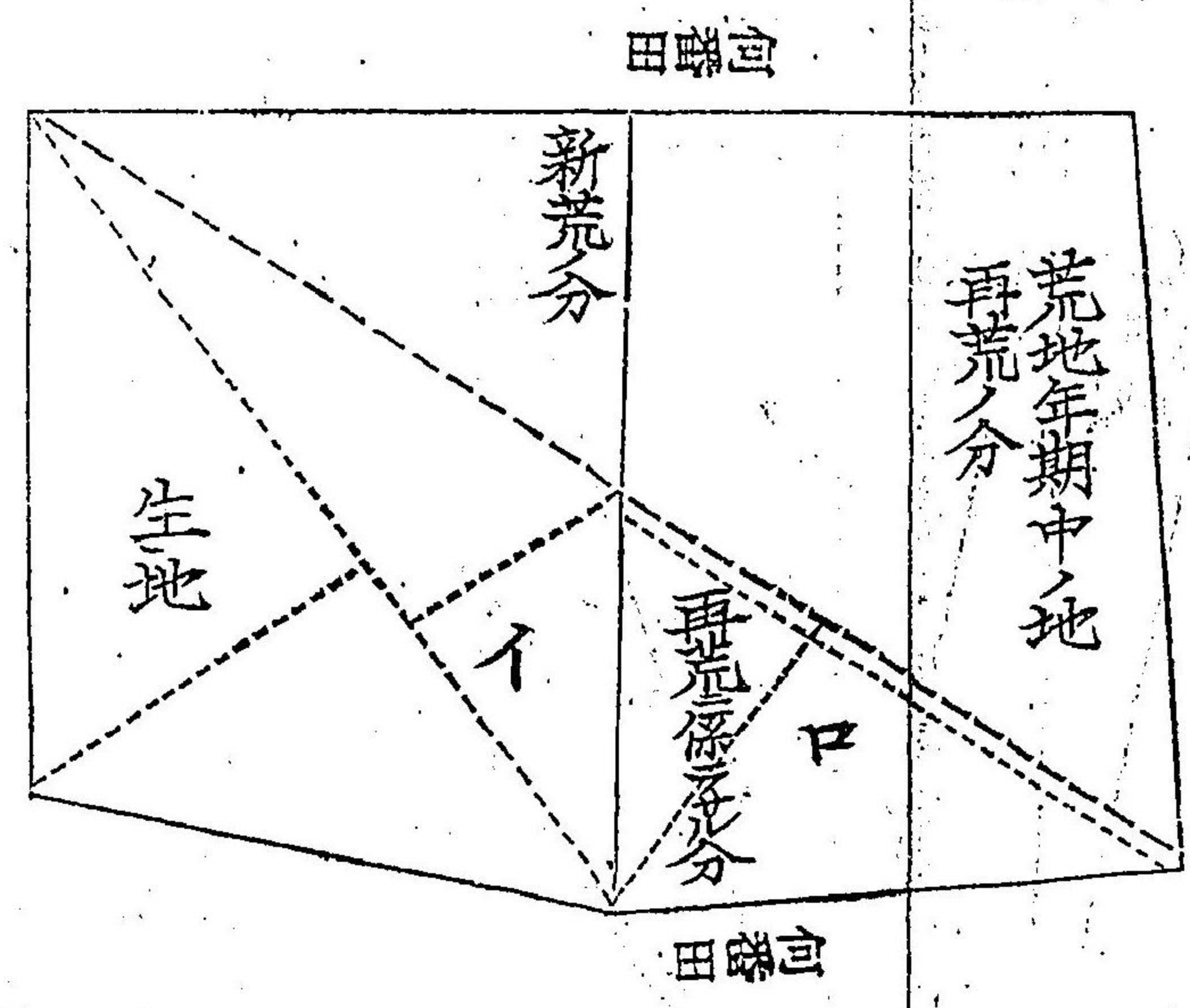
守何 何番
 一反別何反歩ノ内
 残反別何反歩
 道路成

地主 氏 名 印

字何 何番
 一田何反步
 内何畝步
 何畝步
 再荒
 生地

△一筆中ノ幾部新荒并ニ再荒ニ係リタル例

何番田



北

一 除、
 二 除、
 三 除、
 再荒
 一 除、
 二 除、
 三 除、
 生地

右之通候也

年月日

住所

地主何

某印

知事宛

府令第二十四號

十六日

明治二十五年_{七月}本府令第四十六號同業組合取締規則第一

條第五項京都市刺繡工業トアルヲ「京都市刺繡商工業」ト改ム

府令第二十五號

二十四日

明治二十九年_{三月}法律第十七號ニ依リ害蟲驅除豫防施行規

則左ノ通相定ム

害蟲驅除豫防施行規則

第一條 明治二十九年_{三月}法律第十七號ニ依リ京都市下ニ

於テ驅除豫防スヘキ害蟲ハ左ノ種類トス

螟蟲

ズイムシ

浮塵子

ウシカ

苞蟲

ツトムシ

螟蛉

アチムシ

地蠶

チキリムシ

葉捲蟲

チヤノハマキムシ

尺蠖

チヤノシヤクトリムシ

蛄

チヤノケムシ

第二條 前條ノ害蟲田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ作人ハ直ニ驅除豫防ニ着手シ同時ニ市ハ區長ニ郡ハ町村長ニ届出ツヘシ

第三條 町村農會長ハ其町村内田畑ニ於テ第一條ノ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ作人ニ注意シ驅除豫防セシメ同時ニ町村長ニ報告スヘシ

第四條 第二條ノ届又ハ第三條ノ報告ヲ受ケタル町村長ハ直ニ郡長ヘ郡區長ハ知事ヘ左ノ事項ヲ具シ急報スヘシ

シ

但町村長又ハ郡區長ニ於テ害蟲ノ田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アルヲ發見シタルトキモ亦本條ニ依ルヘシ
一 害蟲ノ種類名稱(方言)

一 驅除豫防スヘキ郡區町村大小字名及見積反別

一 被害作物ノ種類及被害ノ狀況

一 驅除豫防ヲ行フヘキ見込期限

第五條 害蟲驅除豫防ヲ行フヘキ命令ヲ受ケタル郡長ハ即時町村長ニ區町村長ハ直ニ該田畑作人ニ傳令シ指揮監督シテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ郡長ハ町村長ニ命ジ區町村長ハ直ニ市町村費ヲ以テ之ヲ

行ヒ其費用ハ害蟲驅除豫防法第三條第二項ニ依リ其作人ヨリ徵收スヘシ

第六條 害蟲蔓延シタルトキハ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若クハ害蟲田畑以外ニ發生シ又ハ發生ノ虞アルトキ町村農會長ハ町村長ニ町村長ハ郡長ニ郡區長ハ知事へ第四條ノ事項ヲ具シ急報スヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テ驅除豫防ヲ行フヘキ命令ヲ受ケタル郡長ハ町村長ニ傳令シ區町村長ハ直ニ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フヘシ

第八條 第六條ノ場合ニ於テ夫役ヲ賦課スルノ必要アリト認ムルトキハ郡區長ハ豫メ賦課ノ區域并ニ賦課率ヲ定メ具申スヘシ

第九條 害蟲驅除豫防法第六條ニヨリ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物莖稈刈株雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルノ必要アリト認ムルトキハ町村長ハ郡長ニ郡區長ハ直ニ知事へ具申スヘシ

第十條 第一條ニ定メタル以外ノ害蟲發生シ又ハ蟲類以外ノ動物ニシテ農作物ヲ害シ又ハ害スルノ虞アルトキハ作人又ハ町村農會長ハ町村長ニ町村長ハ郡長ニ郡區長ハ知事へ第四條ノ事項ヲ具シ具申スヘシ

第十一條 驅除豫防施行期間ノ景況ハ毎日町村長ヨリ郡長ニ郡區長ヨリハ知事へ報告スヘシ

第十二條 毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ町村長ハ翌年

四月五日限り郡長ニ報告シ郡區長ハ同月十日限り知事
ニ報告スヘシ

害蟲名 驅除豫防報告 (施行毎ニ各害蟲別ニ作ルヘシ)

郡市町村名	被害ノ大 同ノ小字	農作物ノ種類	同上見積反別	此平均收穫高	被害ニヨリ 減收見積高	驅除豫防ニ係 ル市町村費	同上夫 役ノ數	同上地方 稅補助費

府令第二十八號 二十五年

明治十九年^{十二月}府令第五十六號 乗合馬車取締規則別紙ノ通
リ改正ス

營業乗合馬車取締規則

第一條 本則ハ乗合馬車營業者及馭者馬丁ノ業ヲ執ル者
ニ適用ス

第二條 乗合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ事

項ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可證ヲ受ク
ヘシ

- 一 營業者ノ族籍住所身分氏名年齢
 - 二 車体數
 - 三 馬匹數
 - 四 車体二輛以上使用スル者ハ其番號
 - 五 駐車場ノ位置 (道路其他官有地ニ係ル者ハ借
地許可證寫ヲ添付スルヲ要ス)
 - 六 營業區域及線路
- 第三條 馭者馬丁ノ業ヲ執ラントスル者ハ願書ニ左ノ事

項ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出テ鑑札ヲ受ク
ヘシ

但雇主アル者ハ雇主ノ連署ヲ要ス

一族籍住所身分氏名年齢

二 馭者ハ馭術ニ關スル履歷書

第四條

營業者支店ヲ設ケタルトキハ業務擔當人ヲ定メ

其族籍住所身分氏名年齢ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分

署ニ届出ヘシ

業務擔當人ハ營業上ニ關シテハ營業者ト同一ノ責ニ任

ス

第五條

駐車場ノ位置又ハ營業區域及線路ヲ變更セント
スルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出認可ヲ受ク

ヘシ

第六條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ

身体強壯ナル者ニ限ルヘシ

第七條

馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ

第八條

線路中積雪泥濘其他危險ノ虞アリト認ムルトキ

ハ行車安全ノ方法ヲ命シ又ハ臨時行車ノ停止ヲ命スル

コトアルヘシ

第九條

鑑札ヲ下附シタル馭者馬丁ト雖モ不適當ナリト

認ムルトキハ鑑札ヲ引揚クルコトアルヘシ

第十條

營業者ハ車体馬匹ノ使用以前所轄警察署又ハ警

察分署ニ於テ検査證ヲ受クヘシ其買受ケ讓受ケ及車体

ヲ改造シタルトキ亦々同シ

第十一條 検査證アル車馬ト雖モ車体器具ノ破損又ハ馬
匹ノ疾病衰弱其他不適當ト認ムルトキハ其検査證ヲ引
揚クルコトアルヘシ

第十二條 許可證検査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十三條 乗客ノ員數ハ豫メ之ヲ定メ所轄警察署又ハ警
察分署ノ認可ヲ受ケ車体内部ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第十四條 賃錢ハ豫メ之ヲ定メ所轄警察署又ハ警察分署
ノ認可ヲ受ケ車体内及駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第十五條 駐車場ニハ(乗合馬車駐車場)ト記シタル標識ヲ
掲クヘシ

第十六條 車体屬具及齒車場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘ
シ

但駐車場ノ構造ハ所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ
受ケ省略スルコトヲ得

一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘシ

二 車体ハ無地漆塗又ハ假漆塗ニシテ母衣又ハ屋根ヲ
設クヘシ

三 客坐中張及敷物ハ革、羅紗、天鷲絨類ヲ用ヒ適當ノ裝
置ヲ爲スヘシ

四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘシ

五 車体前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘシ

六 運轉器ノ心棒、發條、力革、手綱及其他ノ器具ハ堅牢強
韌ノモノヲ用ユヘシ

七 護膜引又ハ桐油製ノ雨具ヲ備フヘシ

八 駐車場ノ地盤ハ石、煉瓦石、敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第十七條 馭者馬丁ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 馭者帽黒紺羅紗圓形ニシテ黒革眉庇付
- 二 同着衣黒紺羅紗又ハ木綿筒袖ツボン
- 三 同靴適宜
- 四 馬丁帽黒紺羅紗圓形ニシテ黒革眉庇付
- 五 同着衣紺木綿法被股引

但雨雪泥濘ノトキハ半股引及護謨引又ハ桐油製ノ雨具ヲ用ユルモ妨ケナシ

第十八條 車体馬匹ノ検査證及馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年二回以上所轄警察署又ハ警察分署ノ検査ヲ受クヘシ其檢

査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

但検査期日場所及方法等ハ所轄警察署又ハ警察分署ノ定ムル處ニ從フヘシ

第十九條 左ノ場合ニ在テハ三日以内ニ所轄警察署又ハ

警察分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

一 轉居改氏名其他許可證検査證鑑札等ニ異動ヲ生シ

タルトキ

二 許可證検査證鑑札等ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不明

ニ至リタルトキ

第二十條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ

警察分署ニ届出許可證車馬検査證鑑札ヲ返納スヘシ

一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタルトキ

二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ
三 馭者馬丁ヲ解雇シ又ハ馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死亡シタルトキ

第二十一條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス
但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第二十二條 左ニ記載シタルモノハ乗載スヘカラス
一 六種傳染病、疥癬、癩病、其他乗客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者

二 瘋癲者亂醉者
三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品
四 獸類

五 危險物

第二十三條 馭者馬丁就業中ハ鑑札及乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直チニ之ヲ示スヘシ

第二十四條 馭者馬丁ハ頰冠リ鉢巻其他不体裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十五條 馭者ハ馭車臺ヲ離ルヘカラス
但馭者避クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ爲スヘシ
第二十七條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十八條 乗客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十九條 馭者臺ニ客ヲ乗載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲナサスシテ物品ヲ載スヘカラス

第三十條 馭者馬丁ハ行車中飲食又ハ喫煙ヲ爲スヘカラス

第三十一條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十二條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫リニ疾驅スヘカラス

第三十三條 行車中馬丁ハ客室又ハ馭者臺ニ登ルヘカラス

第三十四條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 牛馬車及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊并ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

二 貨車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ヨリ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル馬車及灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十五條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過

スルトキハ喇叭ヲ吹キ徐行シ且馬丁ヲシテ前行セシメ
險峠道危險ノ場所又ハ坂路ニ在テハ馬丁ハ馬ノ口綱
ヲ取リテ徐行シ街角ニ於テハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小
廻リヲ爲スヘシ

但闇夜又ハ濃霧ノ時若クハ市街ヲ形成シタル地ニ於
テハ喇叭ヲ吹キ徐行スヘシ

第三十七條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ
於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十八條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十九條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第四十條 車体馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第四十一條 定員三分ノ一以上乗客アルトキハ正當ノ理

由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第四十二條 乗客降車ノ際ハ其留品ヲキヤニ注意シ若シ
之レアルトキハ直チニ返付スヘシ其主分明ナラサルト
キハ五日以内ニ最寄警察署又ハ警察分署巡査派出所又
ハ巡査駐在所ニ届出ヘシ

第四十三條 第二條第三條第四條第一項第五條第十條第
十八條第三十一條第三十二條第三十六條ニ違背シタル
モノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳
拾五錢以下ノ科料第十二條第十三條第十四條第十五條
第十七條第二十一條第二十二條第二十九條第三十四條
第三十五條第三十七條第三十八條第三十九條第四十一
條ニ違背シタル者ハ一日拘留又ハ拾錢以上壹圓以下ノ

科料ニ第十九條第二十條第二十三條第二十四條第二十五條第二十七條第三十條第三十三條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第四十四條 馭者馬丁ノ服裝車体及駐車場等本則ニ適合

セサル者ハ本年十二月三十日迄ニ改造スヘシ

府令第二十九號

二十七日

市町村立小學校徒弟學校實業補習學校正教員恩給基金收納規則左ノ通相定ム

但本令ニ牴觸スル從前ノ達ハ廢止ス

市町村立小學校徒弟學校實業補習學校正教員恩給基金收納規則

第一條 明治二十三年法律第九十號第十四條第三項ニ依

リ市町村立小學校徒弟學校實業補習學校正教員ヨリ當

廳ニ納ムヘキ金員ハ市參事會又ハ町村長ニ於テ俸給支

拂ノ際收入役ノ事務取扱者若クハ收入役ヲシテ之ヲ差

引セシムヘシ

但市立尋常小學校正教員ヨリ納ムヘキ金員ハ區長ニ

於テ之ヲ差引スヘシ

第二條 前條ニ依リ差引シタル金員ハ毎年三月六月九月

十二月ノ四回ニ分テ其ノ前三ヶ月分ヲ取纏メ明治二十

三年法律第九十號第十四條第二項ノ納金ヲ添ヘ市ニ於

テハ翌月十日迄ニ當廳ニ町村ニ於テハ翌月五日迄ニ所

轄郡役所ニ地方稅爲換方預リ切符ヲ以テ納付スヘシ

第三條 郡役所ニ於テ前條ノ納金ヲ收納シタルトキハ地方稅爲換方預リ切符ヲ以テ其月十日迄ニ當廳ニ納付スヘシ

第四條 本則ニ依リ恩給基金ヲ納ムルニハ市立學校ニ係ルモノハ第一號書式ニ町村立學校ニ係ルモノハ第二號書式ニ照ラシ送納書及ヒ仕譯書ヲ添付スヘシ

第一號書式
用紙適宜 縱四寸五分
横二寸三分 ノモノ二枚

納	送	第	號	何校外何校分
一金	明治何年度	小學校(徒弟學校)(實業補習學校)教員恩給基金	何年自何月三ヶ月分至何月	

右送納候也

明治何年何月何日

市參事會知事又ハ區長氏名印

書 領 收 證 書

第	號	何校外何校分
明治何年度	小學校(徒弟學校)(實業補習學校)教員恩給基金	何年自何月三ヶ月分至何月
一金		

右領收候也

明治何年何月何日

京都府內務部第四課長氏名印

第

號(送納書ト同番號)
(ヲ記入スヘシ)

送納仕譯書

一金何圓何拾錢也

內

金何圓何拾錢

金何圓何拾錢

內譯明細書

何々校外何校正教員ヨリ
納金高

何市(何學區)ヨリ納金高

納額	月數	校名又ハ市(區)名	月俸額	月俸百分ノ一ニ當ル金額	姓名
何拾何錢	三ヶ月分		何圓	何拾何錢	何
何拾何錢	同		何圓	何拾何錢	何
何拾何錢	何月分		何圓	何拾何錢	何
					某

何拾何錢	何月分	何々校	何圓	何拾何錢	同	人
何拾何錢	何月分		何圓	何拾何錢	何	某
何拾何錢	何月分	何市(何學區)納金	何圓	何拾何錢	同	人
何拾何錢	何月分		何圓	何拾何錢	何	某
小計						
何圓何拾錢	三ヶ月分		何拾何圓	何圓何拾錢		

右仕譯書面ノ通相違無之候也

明治何年何月何日

府知事宛

市參事會知事(又ハ區長)

氏

名印

第二號書式

用紙適宜 縱四寸五分 横二寸三分 ノモノ二枚

送納書

第 號	明治何年度	小學校(徒弟學校)(實業補習學校)教員恩給基金	何郡(又ハ何町村)分 何年自何月三ヶ月分 至何月三ヶ月分
一金			
右送納候也			
明治何年何月何日			
何郡長又ハ何町村長氏名印			

領收證書

第 號	明治何年度	小學校(徒弟學校)(實業補習學校)教員恩給基金	何郡(又ハ何町村)分 何年自何月三ヶ月分 至何月三ヶ月分
一金			
右領收候也			
明治何年何月何日			
京都府内務部第四課長(又ハ何郡長)氏名印			

第

送納書ト同番號
(ヲ記入スヘシ)

送納仕譯書

此譯

金何圓何拾錢也

何々校正教員ヨリ納金高

内

金何拾何錢

訓導何某月俸何圓ノ百分ノ一三ヶ月分

金何拾何錢

訓導何某月俸何圓何月何日新任ニ付日割支給額何圓ノ百分ノ一及月俸金額ノ百分ノ一何ヶ月分

金何圓何拾錢

何々校正教員ノ三ヶ月間給料額百分ノ一ニ當ル金員常町ヨリ納金高

右仕譯書面ノ通相違無之候也

明治何年何月何日

何町村長 氏

名 印

郡 長 宛

第

號(送納書ト同番號)ヲ記入スヘシ
送納仕譯書

一金何圓何拾錢

内

金何圓何拾錢

何々校外何校正教員ヨリ納金高

金何圓何拾錢

何町村外何々町村ヨリ納金高

内譯明細書

納額	月數	校名又ハ町村名	月俸額	月俸百分ノ一ニ當ル金額	姓	名
何拾何錢	三ヶ月分		何圓	何拾何錢	何	某
何拾何錢	同		何圓	何拾何錢	何	某
何拾何錢	何月分		何圓	何拾何錢	何	某

何拾何錢	何月分	何々校	何圓	何拾何錢	同	人
何拾何錢	何月分	何々校	何拾何圓	何拾何錢	何	某
何拾何錢	何月分		何圓	何拾何錢	同	人
小計 何圓何拾錢	三ヶ月分	何々校	何拾何圓	何圓何拾錢	何拾何圓	何拾何錢
何圓何拾錢			何拾何圓	何圓何拾錢	何拾何圓	何拾何錢
何圓何拾錢	三ヶ月分	何町村納 金高	何拾何圓	何圓何拾錢	何拾何圓	何拾何錢
何圓何拾錢	三ヶ月分	何町村納 金高	何拾何圓	何圓何拾錢	何拾何圓	何拾何錢

右仕譯書面ノ通相違無之候也

明治何年何月何日

郡長氏名印

府知事宛

府令第三十號 八月三日

明治十九年五月甲第五十六號達河川漁業取締規則第三條
 ～左ノ一項ヲ追加ス

第四項 鵜ヲ使用シ漁撈スル事

府令第三十三號 八月十四日

郡一般

郡部淀川改良工事費負擔不均一賦課方法臨時郡部會ノ議
 決ヲ經テ左ノ通相定ム

郡部淀川改良工事費負擔不均一賦課方法

第一條 淀川改良工事費負擔ハ河川法第三十七條ニ依リ
不均一ノ賦課ヲ爲スモノトシ普通ニ賦課スルモノ、外
左ノ通地租割ヲ増課ス

葛野郡

京極村	一ヶ年	金拾	參	圓
桂村	同	金五圓	八拾	錢
川岡村	同	金貳拾五圓	貳拾	錢
乙訓郡				
久世村	一ヶ年	金六拾九圓	九拾	錢
久我村	同	金百拾六圓	四拾	錢
羽束師村	同	金百	參拾	貳圓
淀川村	同	金七拾四圓	八拾	錢

紀伊郡

向日町	同	金貳		圓
新神足村	同	金九拾貳圓	拾	錢
大山崎村	同	金百	拾	四圓
堀内村	一ヶ年	金參拾參圓	七拾	錢
向島村	同	金參百四拾圓	八拾	錢
伏見町	同	金八拾壹圓	八拾	錢
竹田村	同	金五拾九圓	貳拾	錢
深草村	同	金拾圓	五拾	錢
東九條村	同	金八圓	六拾	錢
吉祥院村	同	金百貳拾壹圓	四拾	錢
上鳥羽村	同	金百五拾六圓	貳拾	錢

宇治郡	宇治村	同	金百貳圓參拾錢
宇治郡	横大路村	同	金貳百貳拾壹圓拾錢
宇治郡	納所村	同	金四拾五圓九拾錢
久世郡	醍醐村	同	金七拾四圓
久世郡	宇治町	一ヶ年	金四拾八圓五拾錢
久世郡	榎島村	同	金百九拾五圓參拾錢
久世郡	小倉村	同	金貳百參拾參圓拾錢
久世郡	大久保村	同	金五拾七圓七拾錢
久世郡	久津川村	同	金八拾四圓五拾錢

綴喜郡	佐山村	同	金參百五拾六圓六拾錢
綴喜郡	御牧村	同	金參百貳拾四圓參拾錢
綴喜郡	淀町	同	金貳拾九圓四拾錢

八幡町	美豆村	同	金百四拾貳圓
八幡町	都々城村	同	金六拾九圓六拾錢
八幡町	有智郷村	同	金九拾貳圓貳拾錢
八幡町	大住村	同	金百壹圓五拾錢
八幡町	大住村	同	金貳拾圓六拾錢

第二條 前條各町村別地租割増課額ハ町村會ニ於テ本年十月一日現在ノ地租額ニ依リ町村内利益ヲ受クヘキ各筆ノ土地ニ就キ其關係ノ厚薄ヲ標準トシ等差ヲ設ケ同

月二十五日限り之ヲ分賦スヘシ

府令第三十六號 二十八日

大阪府及兵庫縣下ニ於テ牛疫發生候ニ付豫防ノ爲メ當分ノ内該府縣下ヲ發シ又ハ之ヲ通過シタル牛羊ノ輸入ヲ停止ス犯シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

但シ當府下ニ接近スル場所ニシテ未タ牛疫發生ナキ郡村ノ牛羊ハ即日往復スルモノニ限り當府警察官吏ノ認定ヲ經テ往來スルコトヲ得當府管内ノ牛羊ニシテ該郡村ニ即日往來スルモノモ亦同シ

本令ハ發布ノ日ヨリ實施ス

府令第三十九號 十五日

酒造税法ニ關シ提供スヘキ書類中左ニ記載ノ事項ハ其書

式別紙ノ通相定ム

但混成酒税法ニ關シ提供スヘキ書類モ此書式ニ準據ス

ヘシ

一酒類製造免許申請書

第一號書式

一地所建物圖面、酒造用容器器具器械

第二號書式

目錄

一酒類見込石數、着手時期、製造方法、仕

込數申告書

第三號書式

一保証人認可申請書

第四號書式

一納稅保証書

第五號書式

一酒母、醱熟成、原料用酒類、元粕使用申

告書

第六號書式

(第一號書式)

酒類製造免許申請書

一 清酒見込石高何程 (新税法施行以前ノ營業者ニシテ引續キ免許申請ノモノハ見込石高ノ記載ヲ要セス)

一 何 酒

一 何 酒

右酒類何_{市郡}何_{町字}何何番戸ニ於テ製造免許相成度此段申請候也

住所

年月日

京都府知事宛

氏

名印

(第二號書式ノ一)

記

- 一 酒造場地所建物圖面
 - 一 酒造用容器器具器械目錄
- 右提出候也

住所

年月日

京都府知事宛

氏

名印

(第二號書式ノ二) 地所建物圖面

(美濃紙一葉ニ縮圖スヘシ)

小字何何番地

何_{市郡}何_{町字}何何番戸

一 市街(郡村)宅地坪數(反別)何程

酒類製造場

一 建物 幾棟 坪數 何程

内

酒造ニ屬セサル分

瓦葺

一本宅 幾棟 何百何十何坪

内二階建何坪何合何勺

酒造ニ屬スル分

瓦葺

一土藏 幾棟 何十何坪

内二階建何坪何合

同

一納家 幾棟 何十何坪

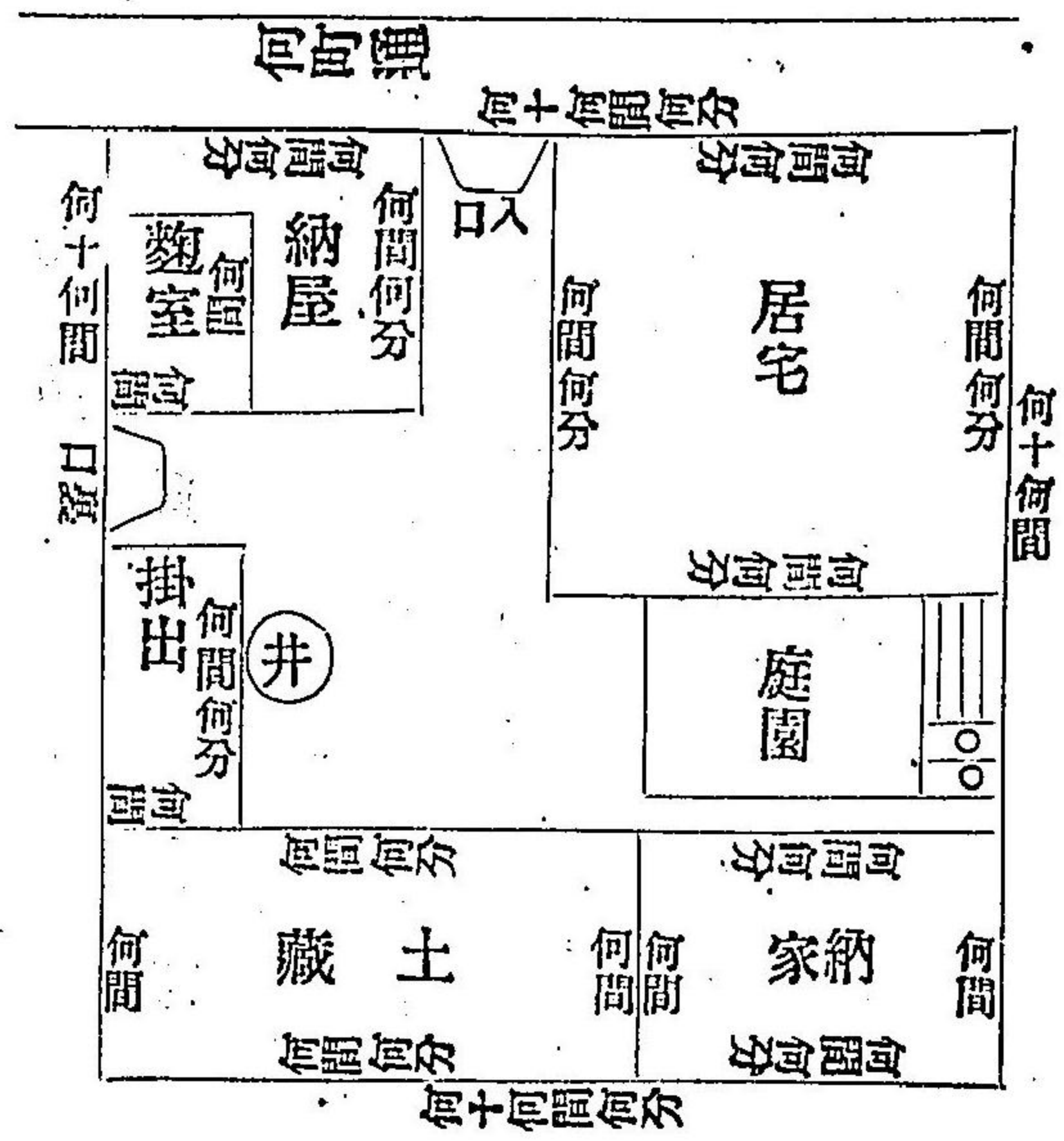
但総二階建(平家)

一麴室 何坪何合何勺

板葺

一掛出(片流) 何坪

一建物ハ名稱ノ如何ニ拘ハラス洩ナク記載スヘシ
一清酒并ニ濁酒ヲ製造セントスルモノハ朱線ヲ以テ其場所ノ區別
ヲ明ニスヘシ



二百四十

(第二號書式ノ三)

酒造用容器器具器械目錄

何郡 何町 何番 何字

何市 何區 何村 何番 何字

一桶(酒母、醪、酒類ノ容器)

一水桶

一酒槽

一男柱

一何々

以上

一製造場内ニ現在スルモノハ使用ト否トヲ問ハス洩レナク記載ス
一借入ニ係ルモノアルトキハ其旨傍記スヘシ

二百四十一

(第三號書式ノ一)

酒類見込石數其他申告書

本年期製造スヘキ酒類見込石數着手ノ時期及ヒ製造方法
仕込ノ個數別紙之通ニ付此段申告候也

住所

年月日

氏名

京都府知事宛

(第三號書式ノ二)

製造酒類見込造石數着手ノ時期

何市郡何町字何何番戶

酒類製造場

酒名	製酒見込石高	仕込數若クハ蒸溜釜數	着手ノ時期
----	--------	------------	-------

(第三號書式ノ三)

清(濁)酒製造方法

何市郡何町字何何番戶

酒類製造場

一酒母造リ方法	一仕舞ノ法
符號 個申告 種目 石數 符號 個申告 種目 酒母 添 中 留 計 清酒見 込石數	符號 個申告 種目 酒母 添 中 留 計 清酒見 込石數

5			
何個 自第何號 至第何號			
酒母見 込石數	汲水	麴米	蒸米
5			
何個 自第何號 至第何號			
見込石數	汲水	麴米	蒸米

一 醸造方法ノ異ナル毎ニ順次ろ、は等ノ符號ヲ付スヘシ
 一 酒造原料用酒類ニ係ルモノモ亦本書式ニ準スヘシ
 (第三號書式ノ四)

味淋(白酒)製造方法

何市郡 何町字 何何番戶
 酒類製造場

符號	仕込個數	種目	一度仕込	二度仕込	三度仕込	計	法

5			
何個 自第何號 至第何號			
見込石數	元燒酎	麴米	蒸米

一 製造方法ノ異ナル毎ニ順次ろ、は等ノ符號ヲ付スヘシ
 (第三號書式ノ五)

燒酎(酒精)製造方法

何市郡 何町字 何何番戶
 酒類製造場

符號	蒸溜釜數	種目	一釜	蒸溜法
5	自第何號 至第何號			

一 蒸溜法若クハ原料種目ノ異ナル毎ニ順次ろ、は等ノ符號
ヲ付スヘシ

一 酒造原料用酒類ニ係ルモノモ亦本書式ニ準スヘシ

(第四號書式)

保證人認可申請書

何市郡 何町字 何何番戸

酒類製造場

何市郡 何町字 何何番戸

保證人 何 某

生年月

右ハ明治何年一酒造年度製造酒類造石税ニ對シ前記何某
ヲ以テ納税保證人ニ相立可申候間認可相成度保證人連署

ヲ以テ此段申請候也

年月日

住所

氏

名印

住所

保證人 氏

名印

京都府知事宛

(第五號書式ノ一)

(保證人所在地市區町村長證明ノ印鑑ヲ添付スヘシ)

納税保證書

印紙

何國何市郡 何町字 何何番戸

酒類製造場

一金何程

但第何號供託受領證 何通

一何々公債證書何分利付 番號

此額面金高何程

所有者 何

某

但同上

(株券債券共以下之ニ倣ヒ列記スヘシ)

何府縣何市郡何町字何何番地

一田(畑)(何々)反別(坪數)何程

所有者 何

某

此地價金何程

(以下之ニ倣ヒ列記スヘシ)

何府縣何市郡何町字何何番地(戶)

一建物坪數何程

所有者 何

某

何々保險會社被保險金額何程

但別紙圖面ノ通

(以下之ニ倣ヒ列記シ圖面ハ第二號書式ニ倣フヘシ)

右ハ明治二十九年法律第二十八號酒造税法第十三條ニヨリ明治何年一酒造年度製造酒類ノ納稅保證トシテ提供候也

年月日

住所

氏

名印

京都府知事宛

他人ノ所有財產ヲ借入保證物トスルトキハ其所有者連署スヘシ
又建物ニハ保險證書寫ヲ添付スヘシ

(第五號書式ノ二)

納稅保證書

何國何郡何市區何町字何何番戶酒類製造場
酒類製造主 何 某

右酒類製造主ニ於テ明治何年一酒造年度製造ニ係ル酒類
造石稅納稅保證人ニ相立候義相違無之候也

住所

年月日

保證人 氏

名印

京都府知事宛

(第五號書式ノ三)

納稅保證書

何國何郡何市區何町字何何番戶

酒類製造場

一何酒何程

此見積價格金何程

右ハ明治二十九年法律第二十八號酒造稅法第十四條第二
號ニヨリ明治何年一酒造年度製造酒類ノ納稅保證トシテ
保存致候也

住所

年月日

氏

名印

京都府知事宛

(第六號書式)

酒母(膠)熟成申告書

何郡何市區何町字何何番戶

酒類製造場

一酒母(膠)第何號ヨリ
第何號迄何個

但何月何日ヨリ何日マテ酏立(仕舞)何月何日買入)ノ分何
日頃熟成何日使用ノ見込
右申告候也

年月日
住所
氏名印

京都府知事宛

府令第四十號 十九日

自家用酒製造免許申請書式左ノ通相定ム
第何種造石數何石未滿
一濁酒 何程

(原料用酒類及ヒ酒類原料申告書モ之ニ準據スヘシ)

此製造方法

蒸米 何程

麴米 何程

汲水 何程

此製造時期

毎年何月

(一酒造年度中數回製造スルモノハ各別ニ掲記スヘシ)

一澆酎 何程

此製造方法

元粕 何程 但幾釜

此製造時期

毎年何月

(他ノ酒類モ之ニ準ス)

合石數 何程

一直接國稅納額何程(又ハ直接國稅ヲ納付セス)
右製造免許相成度此段申請候也

住所

年月日

氏名印

京都府知事宛

府令第四十一號

九月十五日

明治二十七年九月
京都府令第四十六號酒造營業人心得ハ本年九月限廢止ス

府令第四十二號

九月十六日

明治二十二年三月法律第九號國稅徵收法第六條第二項及
同二十七年六月大藏省令第十二號國稅徵收法施行細則第九條ニ據リ租稅ノ徵收猶豫ヲ出願スルトキハ願書へ稅目、

納期、猶豫金額、期日及被害ノ實況等ヲ詳記シ郡ハ所轄町村
役場ヲ經テ郡役所へ市ハ所轄區役所へ差出スヘシ
郡區役所ニ於テ前項願書ヲ接受シタルトキハ速ニ事實調
査ノ上意見ヲ附シ所轄收稅署へ回送スヘシ
收稅署ニ於テハ前項ノ願書ヲ調査シ本府へ送付スヘシ

府令第四十五號

三十日

製造場取締規則左ノ通り相定ム

明治二十五年四月府令陸上蒸氣機關取締規則ハ廢止ス

製造場取締規則

第一條 本則ハ蒸氣力電働力水力石油發動機關火爐吹子
竈類ヲ使用シ又ハ惡臭劇響ヲ發シ其他危害ヲ生シ健康
ヲ害スル虞アル製造場ニ適用ス

第二條

前條製造場ヲ新設シ又ハ増設變更セントスル者

ハ願書ニ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 敷地ノ位置郡市區町村字番地

二 敷地及建造物ハ坪數并ニ周圍三十間以内ノ地形人家等ノ位置及其互ノ距離ヲ示シタル平面圖(縮尺六百分ノ一以上)

三 敷地内ニ於ケル建造物非常口機械類竈火爐吹子烟突等ノ位置及其互ノ距離ヲ示シタル平面圖(縮尺六百分ノ一以上)

四 有害瓦斯ヲ發散スルモノハ其防除方法汚水ヲ生スルモノハ其排除方法汚物ヲ生スルモノハ其除却ノ方法ヲ記シタル書面

五 機械類(電氣機 竈ヲ除)竈火爐吹子等ノ種類大サ及個數

但流籠流瀝機ニ在テハ其名稱公稱安全辦ノ個數種

類實馬力及製造地名製造年月日ヲ記入スヘシ

六 製品名原料燃料ノ種類量目

七 職工ノ員數(男女ニ區別ス)及就業并ニ休業時間

八 五十坪以上ノ建造物ニ在テハ左ノ仕様書及圖面

一 豎(正面及側面)斷面平面及小屋割伏地ノ各圖面(縮尺百分ノ一以上)

一 用材ノ種類及寸法ヲ詳記シタル切組仕様書及圖面

(縮尺五十分ノ一以上)

九 五十坪未満ノ平家建ニ在テハ其畧圖及仕様書

十 烟突ノ仕様書及圖面

但用材ノ名稱品質寸法數量并ニ左ノ事項ヲ記載

スヘシ

一 煉化石造ノ烟突ニ在テハ地質ノ摸樣地平以上ノ高サ形狀底部ノ寸法頂部ノ寸法煉化石ノ總數底部ヨリ順次頂部ニ至ル煉化石ノ厚并ニ積方モルタルノ調合底部掃除口ノ構造地杭ノ種類并ニ長サ地杭ノ打方何寸間若クハ一坪ニ付何本ノ割地平ヨリ地杭頭迄ノ深サ并ニ面積コンクリートノ調合厚并ニ面積

一 鉄板製ノ烟突ニ在テハ基礎ノ仕樣地平上ノ高サ外形及厚サ(吹付)支線(ステール)ノ種類箇數大サ及取付方法

十一 避雷針ノ仕樣書

但左ノ事項ヲ記載スヘシ

頭尖ノ形狀及大サ導線ノ種類及大サ地中銅板ノ廣サ及埋設方法并ニ頭尖導線ニ於ケル接續方法

第三條

工事施設仕樣書ニハ擔當技術者連署スヘシ

第四條

左ノ場所ニ在テハ煤煙粉塵劇響又ハ有害惡臭ノ

氣体ヲ發散スル製造場ノ設置ヲ許サス

一 皇宮離宮及御用邸御料地ヲ離ル三百間以内土地

一 御陵墓ヲ離ル百八十間以内土地

一 京都市内及市域ヲ離ル百八十間以内土地

但シ土地ノ狀況ニ依リ構造完全ニシテ公害ナキモノト認ムル場合ニ在ツテハ特ニ許可スルコトアル

ヘシ

一 建造物河川道路等ニ對シ公害アリト認ムル土地

第五條 紡織製綿製油隣寸等火災ノ虞アル製造場ニ在テハ相當ノ防火法ヲ設ケ且ツ發火ノ虞ノ多キ作業場ト其
他ノ場所トニ於ケル境界ニ防火壁ヲ設クヘシ

第六條 蒸氣罐ノ位置ハ最近他ノ人家道路ニ對シ直徑五
十尺以上ノ距離ヲ有スヘシ

煉化石造ノ烟突ハ他ノ人家道路ニ對シ其高サ三分ノ一
以上ノ距離ヲ有スヘシ氣罐ト煉化石造ノ烟突トノ距離
亦同シ

但シ蒸機ヲ据付ケサル蒸氣罐ハ土地ノ狀況ニ依リ本條
制限ニ拘ラス特ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 石炭ヲ燃用スル煙突ハ高サ六十尺以上ノ煉化石
造又ハ鐵板製トシ煉化石造ニ係ルモノハ避雷針ヲ裝置

スヘシ

但蒸氣又ハ竈ノ大小及事業ノ種類場所ノ模様等ニ依
リ必要ト認ルマテ高サヲ伸張セシムルコトアルヘシ

第八條 第二條ノ許可ヲ受ケタル後左ノ場合ニ在テハ所
轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當廳ニ届出検査ヲ受クヘ
シ

但検査上不適當ノ工事ト認ムルトキハ更改ヲ命スル
コトアルヘシ

一 石又ハ煉化石造ノ建物若クハ煙突ニ付テハ地盤ヲ
掘鑿シ杭打ヲナストキ

但木造ニシテ本項ノ地形ヲナスモノニ在テモ亦
同シ

- 二 同上コンクリートヲ敷設シ并ニ基礎ヲ組成シタルトキ
 - 三 避雷針ヲ取付ケタルトキ(地中銅板ノ埋没前ニ)
 - 四 全部工事落成シタルトキ
 - 五 其他臨時指示シタル場合
- 第九條 工事落成ノ検査證ヲ受ルニアラサレハ就業スルコトヲ得ス
- 第十條 氣罐瀛機又ハ蒸瀛力ヲ用ヰル蒸釜ヲ使用スル製造場ニ在テハ左ノ規定ニ從フヘシ
- 一 瀛罐瀛機蒸釜ハ据付前及工事落成後検査ヲ受ケ其證書ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス證書有効期限ヲ經過シタルトキ亦同シ

- 二 二ヶ月以上罐瀛機蒸釜ノ運轉ヲ休止シタルトキハ検査證ヲ返納シ再ヒ使用セントスルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ
- 三 検査證書ニ記載セル常用瀛壓ヲ超過セシムルコトヲ得ス
- 四 検査官吏ノナシタル安全瓣ノ封鎖ハ私ニ開封スルコトヲ得ス
- 五 検査證書ハ瀛罐室又ハ瀛機室内見易キ箇所ニ掲ケ置クヘシ
- 六 機關手油差火夫ヲ雇入レントスルトキハ其履歴ヲ添へ又ハ雇止ヲナシタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

第十一條 製造場ノ建造物及蒸氣機又ハ火爐竈吹子等
損傷若クハ其他ノ事由ニ依リ公害ヲ醸スヘキ虞アルモ
ノニ付テハ特ニ修理ヲ命シ且ツ其命令ノ履行ヲ了ルマ
テ作業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十二條 製造場ニ於テ出火崩壊破裂等ノ危害ヲ生シ若
クハ危害ヲ生スヘキ虞アルトキハ速ニ豫防ヲナシ即時
所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

第十三條 鑄物銅吹鍛冶等火粉ヲ飛散スル虞アル製造場
ニ在テハ暴風ノ際ハ臨時休業スヘシ

第十四條 製造場ノ賣買讓與貸借ヲナシタルトキハ双方
連署ノ上五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當
廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

検査証面ニ異同ヲ生シ又ハ紛失毀損シタルトキハ五日
以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當廳ニ届出証書
ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第十五條 本則第一條ニ記載セル各種ノ製造場ニ屬セザ
ルモノト雖トモ營業ノ爲メ蒸氣力電動力ヲ使用シ又ハ

烟突ヲ建設スルモノニ付テハ本則第二條第三條第四條
第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十
二條第十三條第十四條適用ス

第十六條 本則第二條第八條第九條第十條第十二條第十
三條第十四條ニ違フモノ又ハ第八條ノ命令ニ従ハサル

モノハ貳圓以上拾圓以内ノ罰金ニ處ス

附 則

第十七條 本則發布以前創設ノ製造場及ヒ蒸氣力電働力

ヲ使用シ若クハ烟突ヲ建設シタル者ニシテ其創設ノ許

可ヲ受ケサルモノハ明治二十九年十一月三十日迄ニ本

則第二條ニ依リ届出認可ヲ受クヘシ

第十八條 前條ノ認可ヲ受ケタル者ト雖トモ本則第四條

ニ抵觸スル者ハ左ノ期限經過ノ後ハ認可ノ效ヲ失フ者

トス

一 現在存立期限ヲ定メタル者ハ其期限内

二 存立期限ヲ定メサル者ハ本則施行ノ日ヨリ二十五

年間

(參照) 本年府令第五十七號

府令第四十六號 六月

明治二十五年十月府令第五十號煙火取締規則左之通り改

正ス

規則第一條ヲ廢シ第二條ヲ第一條トシ以下順次操上ク

同第十二條煙火ヲ興行(打揚ケ)セントスルトアルヲ煙火ノ打

揚ヲ爲サノスルト改ム

第二項第四條第七條第八條第九條第十條トアルヲ第三條

第六條第七條第八條第九條ト改ム

第三項第十二條トアルヲ第十一條ト改ム

(參照) 本年府令第四十九號

府令第四十七號 九月

明治十九年三月甲第四十一號布達火工塲取締規則及ヒ同十七年五月甲第三十九號布達石油マツチ製造願ノ件ハ廢止ス
府令第四十八號^{十一月十二日}

明治二十五年七月府令第四十六號同業組合取締規則第十二條左ノ通改ム

第十二條 組合員ハ第八條ニ依リ知事ノ認可ヲ得タル賦課徵收方法ニ從ヒ組合ノ經費ヲ負擔スヘシ
但本條負擔額不納者ハ組合會ノ決議ヲ以テ其免否ヲ定ム

府令第四十九號^{十一月二十日}

明治二十九年十月府令第四十六號第二ノ次ニ左ノ通り追加ス

同第十三條中第二條トアルヲ刪除シ第六條トアルヲ第五條ト改ム

府令第五十號^{十一月二十三日}

明治十九年五月甲第五十六號河川漁業取締規則第三條ハ左ノ一項ヲ追加ス

但本項ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス

第五項 舩仕切網其他河川ノ流域ヲ張切り魚道ヲ遮キ

ル漁具漁網ヲ使用スル事

府令第五十一號^{十一月五日}

荷車取締規則左之通相定ム

但明治二十四年^{十二月十二日}府令第七十七號重量物運搬ニ關スル件ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

荷車取締規則

第一條 本則ニ於テ荷車ト稱スルハ人又ハ牛馬ノ力ヲ藉
リ貨物運搬ノ用ニ供スル諸車ヲ謂フ

第二條 荷車所有者ハ其住所氏名ヲ荷臺ノ見易キ處ニ明
記スヘシ

第三條 荷臺ノ長サハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

一 中小車 曲尺十尺

二 大七 大八車 曲尺十一尺

三 牛馬車 曲尺十一尺

第四條 積荷ハ左ノ重量ヲ超ユヘカラス

一 中小車 八拾貫目

二 大七 大八車 百二拾貫目

三 牛馬車 貳百貫目

第五條 積荷ハ左ノ容積ヲ超ユヘカラス但竹木其他分割

スヘカラサル物件又ハ菓秣等輕量ニシテ危害ノ虞ナキ

モノハ此限ニアラス

一 荷臺ヨリ高サ 曲尺六尺

二 荷臺ヨリ前後ノ突出 曲尺各一尺

三 荷臺ヨリ左右ノ突出 曲尺各一尺

第六條 京都市内道幅三間未滿ノ道筋ハ牛馬車ノ通行ヲ

禁ス但荷物ノ發着地若ハ荷車ノ常置場ニ出入スルモノ

ハ貳間三尺マテハ此限ニアラス

第七條 第四條第五條第六條ノ制限ヲ超ヘ貨物ヲ運搬シ

又ハ通行セントスルトキハ其事由及道筋ヲ指定シ貨物

發送地ノ警察署又ハ警察分署ニ届出認可ヲ受ケ其認可書ヲ携帶シ尙ホ車上見易キ處ニ左ノ標章ヲ掲クヘシ

何警察(分)署認可済

第八條 通行ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ荷物ヲ積載シ又ハ荷卸ヲナスヘカラス

第九條 竹木其他末口ノ尖リタル物件ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第十條 荷積ノ墜落漏出若ハ飛散スヘキ虞アル物件ヲ運搬スルトキハ適當ノ装置ヲナスヘシ

第十一條 荷車貳輛以上ヲ連繫シテ轆クヘカラス若シ樹木其他長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ連繫セントスルトキ

ハ第七條ノ規程ニ從フヘシ

第十二條 橋上街角阪路其他通行ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ荷車ヲ駐車スヘカラス

第十三條 現ニ使用セル荷車ノ外ハ道路ニ置クヘカラス

第十四條 荷車ハ跡押シノミニテ運轉スヘカラス

第十五條 京都市及其他人家稠密ノ場所ニ於テ夜間燈火ヲクシテ荷車ヲ轆クヘカラス

第十六條 出火場其他群集ノ場所ニ荷車ヲ轆キ入ルヘカラス

第十七條 荷車貳輛以上連續シテ進行スルトキハ前車ト後車トハ貳間以上ノ距離ヲ取ルヘシ

第十八條 通行及避讓ハ左ノ例ニ從フヘシ

- 一 往來雜踏又ハ橋上街角阪路其他狹隘ノ場所ハ徐行スヘシ
- 二 街角ヲ廻ルトキハ右ハ大廻リ左ハ小廻リヲナスヘシ
- 三 歩行者又ハ車馬ニ逢フトキハ左ニ避ケ軍隊又ハ砲車輕重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
- 四 貨車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ登リ車又ハ空車ヨリ之ヲ避クヘシ
- 五 前車ニ先テ進行セントスルトキハ後車ヨリ懸聲ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 六 郵便又ハ消防用ノ車馬灌水車電氣車其他葬儀等ニ逢フトキハ便宜避讓スヘシ

第十九條 荷車ヲ軌キ路上ニ徬徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十條 荷車ヲ並ヘ軌キ又ハ疾驅スヘカラス

第二十一條 狂躁ノ癖アル牛馬ヲシテ荷車ヲ軌カシムヘカラス

第二十二條 荷車ニ使役スル牛馬ヲ虐待スヘカラス

第二十三條 第四條第五條ノ制限ニ超過セスト雖トモ警察官吏ニ於テ其荷積ノ危險若ハ体力ニ不相當ト認ムルトキハ重量又ハ容積ヲ減セシムルコトアルヘシ

第二十四條 第七條ニ依リ認可ヲ受ケタル荷車ニシテ其使用ノ爲メ道路橋梁等ヲ毀損シタルトキハ自費ヲ以テ當該官吏ノ命ニ從ヘ原形ニ修理スヘシ

第二十五條 第二條第三條第四條第五條第六條第七條第

八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條
第十五條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十
二條ニ違フモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ
處ス

第十六條ニ違フテ制止ヲ背セサルモノハ刑法第四百二
十七條第二項ニ依リ處分ス

附 則

第二十六條 現在ノ荷車ニシテ第三條ノ制限ニ觸ル、モ
ノハ來ル明治三十年十二月三十一日マテ使用ヲ猶豫ス
第二十七條 現在ノ荷車ニシテ第二條ノ制規ニ觸ル、モ
ノハ來ル明治二十九年十二月三十一日マテ之ヲ猶豫ス

府令第五十二號
十一月五日

明治二十七年八月京都府令第四十四號郡長委任條件第四第
七ヲ削除シ第六左ノ通改正ス

第六 地方税支辨ニ係ル道路堤防ノ倒木ヲ處分スル事

府令第五十三號
十一月五日

明治二十七年九月府令第四十九號墓地及埋葬取締細則中
左ノ通改正ス

第二條中「新設セントスルトキハ」ノ次ニ「明治二十九年十
月府令第四十五號製造場取締規則第十五條ニ依リ同則
第二條ノ各項及ヒ」ノ三十九字追加

同條第四項中「火葬室」ノ次ニ「排泄物燒却所」ノ六字ヲ追加
シ「高サ六十尺以上」ノ八字ヲ削除シ「烟筒ノ下」ヲ付シ「サ
」ニ「ハ」ニ改ム

同條第五項ヲ削除シ以下順次繰上ケ

府令第五十四號十一月五日

明治二十八年十二月府令第八十五號化製場取締規則中左
ニ通改正ス

第三條中營業ヲ爲サントスル者ハ「次」明治二十九年
十月府令第四十五號製造場取締規則ニ依リ同則第二條
ノ各項及ヒ「」三十五字追加

第六條中第九項第十項削除

府令第五十六號十一月十日

京都市

京都市上京第二十一學區尋常小學校ノ位置姉小路通神泉
苑町東入姉西町ヲ大宮通御池上ル市之町ニ改ム

(參照) 本年府令第四十二號

府令第五十七號十一月十三日

明治二十九年十月府令第四十五號製造場取締規則中左ノ通
改正ス

- 一 第二條第八號五十坪以上ノ下ニ「」二階以上及煉化
石」ノ九字ヲ挿入ス
- 二 同條第九號ヲ左ノ通改ム
木造平家建及五十坪未滿ノ二階以上建若クハ居
宅ノ一部ヲ使用スルモノニ在テハ其平面圖及仕
樣書
- 三 第四條第三號但書ヲ削除シ第一項ニ左ノ但書ヲ加
フ

但シ土地ノ狀況ニ依リ構造完全ニシテ公害ナキ

モノト認ムル場合ニ在テハ特ニ許可スルコトアルヘシ

四 第六條第二項ノ但書ヲ削除シ第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ常用瀧壓三十磅以下ヲ使用スル瀧罐ニ在テハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ニ拘ラス特ニ許可スルコトアルヘシ

五 第七條但書中高サヲ伸張セシムルコトアルヘシトアルヲ高サヲ伸張セシメ又ハ燃料少量ニシテ公害ナキモノト認ムルトキハ本條制限以内ニ短縮許可スルコトアルヘシト改ム

六 第十五條中煙突ノ下ニ左ノ割註ヲ加フ

(石炭ヲ除キ其他ノ燃料ヲ用ユル煙突ニシテノ風上六尺以内ノモノハ此限ニアラス)

府令第五十九號 十一月十八日

左記町村内ニ住居シ藝妓營業ヲナサント欲スル者ハ所轄郡役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

- 一 相樂郡木津町
- 一 南桑田郡龜岡町
- 一 船井郡園部町八木村
- 一 何鹿郡綾部町
- 一 竹野郡網野村

府令第六十號 十一月二十一日

明治二十五年三月府令第九號學齡兒童就學規則左ノ通改正ス

學齡兒童就學規則

第一條 學齡ハ滿六歳ニ達シタル翌月ヨリ起算シ滿十四歳ニ達シタル月ニ終ル

第二條 就學ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ入ルヘキ年ノ學年ノ初月四迄ニ其年六歳ニ達シタル者ニ就キテハ其月ヨリ生シ其翌月五以後ニ學齡ニ達スル者ニ就キテハ翌年ニ於ケル學年ノ初月ヨリ之ヲ生ス

第三條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ就學義務ノ生スル學年ノ初月ヨリ其兒童ヲ市町村立尋常小學校若クハ之ニ代用スル私立小學校ニ入學セシメ其教科ヲ卒ラサル間ハ退學セシムルコトヲ得サルモノトス
尋常師範學校附屬小學校ハ兒童就學ニ關シ市町村小學

校ト同視ス

第四條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニシテ前條ノ義務ヲ行フコト能ハサルトキハ其事故ヲ町村長町村學校組合長若クハ市ノ區長ニ申立豫メ就學ノ猶豫若クハ其免除ヲ乞フヘシ

但本條ノ事故ニシテ第六條第一款及第二款ニ該當スル者ニ就キテハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第五條 町村長町村學校組合長若クハ市ノ區長ニ就テ就學ノ猶豫若クハ其免除ニ關シ検査ヲ必要ナリト認ムルトキハ其兒童若クハ兒童ノ保護者ニ就キテ之ヲ行フモノトス

第六條 就學ヲ猶豫シ又ハ免除スルハ概テ左ノ場合トス

但兒童學齡ヲ終ル迄就學スルコト能ハズト認ムルニ
アラサレハ免除セサルモノトス

一 兒童ノ身體虛弱若クハ疾病ノ爲メ就學ニ堪ヘサル
トキ

二 兒童ノ保護者疾病ノ爲メ貧窮ニシテ生計ヲ立ルコ
ト能ハサルトキ

三 兒童ノ保護者貧窮ナルカ爲メ其兒童ヲ他人ノ備若
クハ徒弟トナスニアラサレハ生計ヲ立ルコト能ハ
サルトキ

但他人ノ備若クハ徒弟トナスモ就學セシムルコ
トヲ得ヘキ場合ハ猶豫若クハ免除セラル、限リ
ニアラス

四 兒童ノ保護者貧窮ナルカ爲メ其兒童ヲシテ家事ヲ
助ケシメ若クハ見守トナスニアラサレハ生計ヲ立
ルコト能ハサルトキ

但家事ヲ助ケシメ若クハ見守トナスモ就學セシ
ムルコトヲ得ヘキ場合ハ猶豫若クハ免除セラル
、限リニアラス

五 兒童ノ保護者貧窮ニシテ公私ノ救助ヲ受クルトキ
六 道路遠隔若クハ險難ナルカ爲メ兒童其町村立尋常
小學校若クハ之ニ代用スル私立小學校ニ通學スル

ニ堪ヘサルトキ

第七條 就學猶豫ノ期限ハ一學年ヲ超ユルコトヲ得ス若
シ期限滿ルノ後仍其事故止マサレハ更ニ猶豫ヲ乞フモ

ノトス
第八條 町村長町村學校組合長ニ於テ學齡兒童ノ就學ヲ猶豫シ若クハ免除セントスルトキハ豫メ其事故ヲ詳具シテ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其兒童ノ就學義務未タ生セサルモ市町村立尋常小學校若クハ之ニ代用スル私立小學校ノ許可ヲ受クルトキハ次回ノ學年ヲ待タス其學年中ニ於テ入學セシムルコトヲ得

但學齡^{六ヶ月}ニ達セサル間ハ入學セシムルコトヲ得ス前項就學義務ノ生セサル學齡兒童ノ入學ヲ許可セントスルトキハ市立尋常小學校等ニ在テハ區長ニ町村立尋常小學校等ニ在テハ郡長ニ稟議シ豫メ其指揮ヲ受クル

モノトス

第十條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者其兒童ヲ市町村立尋常小學校若クハ之ニ代用スル私立小學校ニ入學セシムルコト能ハサル事情アルカ爲メ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メザラントスルトキハ豫メ町村長町村學校組合長若クハ市ノ區長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 家庭等ニ於テ學齡兒童ニ尋常小學校ノ教科ヲ授クル者ハ其兒童ヲシテ市町村立尋常小學校等ニ就キ學業試験ヲ受ケシメ及等スルニアラサレハ卒業セシメサルモノトス

前項ノ試験成績ニ就キ町村長町村學校組合長若クハ市ノ區長ニ於テ兒童ノ學業尋常小學校ノ教科ヲ修ムルニ

足ラスト認ムルトキハ何時ニテモ最前ノ許可ヲ取消シ
直ニ市町村立尋常小學校等ニ入學セシムヘシ

第十二條 町村長町村學校組合長及市ノ區長ハ常ニ學務
委員ヲシテ學齡簿ニ依リ又ハ其市町村立尋常小學校等
ニ就キ就學不就學ヲ調査セシメ若シ就學義務ノ生シタ
ル學齡兒童ニシテ故ナク入學セス又ハ數日間欠席スル
者アルトキハ之ヲ督促セシムヘシ

第十三條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニシテ若シ學務委員
ノ督促ニ應セサルトキハ町村長町村學校組合長若シハ
市ノ區長ニ於テ嚴重ニ之ヲ督責スヘシ此場合ニ於テ檢
査ヲ必要ナリト認ムルトキハ第五條ニ依リ之ヲ行フモ
ノトス

第十四條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者前條ノ督責ヲ受クル

モ仍之ニ應セサルトキハ町村長町村學校組合長ニ在テ
ハ郡長ニ市ノ區長ニ在テハ府知事ニ詳細其顛末ヲ具申
シ兒童保護者ニ對スル命令ヲ乞フヘシ
郡長ニ於テ前項ノ具申ヲ受クルトキハ更ニ其事由ヲ紀
シ若シ謂レナク義務ヲ怠ルコトヲ認ムルニ於テハ嚴重
ニ兒童ノ就學ヲ命令スヘシ

府令第六十一號 二十一日

明治二十四年十一月十一日 文部省令第十六號 第三條ニ基キ學齡兒童
ノ傭主及師匠ヲ其保護者ト認ムヘキ要件ヲ定ムルコト左
ノ如シ

學齡兒童ノ傭主及師匠ヲ其保護者ト認ムヘキ

要件

第一條 就學義務ノ終ラサル兒童ヲ傭役シ若クハ徒弟トナス傭主及師匠ハ其兒童ヲ市町村立尋常小學校若クハ之ニ代用スル私立小學校ニ出席セシメ授業料及其他就學ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ

但學齡兒童就學規則若クハ保護者代人規則ニ依リ父母後見人等ニ於テ就學義務ヲ免除セラレ若クハ其義務猶豫中ノ兒童ニ關シテハ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二條 傭主及師匠ニシテ前條ノ傭若クハ徒弟ヲ市町村立尋常小學校若クハ之ニ代用スル私立小學校ニ出席セシムルコト能ハサル事情アルトキハ豫メ町村長町村學

校組合長若クハ市ノ區長ノ許可ヲ受ケ其兒童就學ニ關スル別段ノ方法ヲ設ケ尋常小學校ノ教科ヲ脩メシムルコトヲ得

第三條 町村長町村學校組合長若クハ市ノ區長ニ於テ兒童就學ニ關スル別段ノ方法ヲ許可シタルトキハ時々其情況ヲ觀察シ又ハ學務委員ヲシテ之ヲ觀察セシメ若シ成績不十分ト認ムルトキハ何時ニ限ラス其許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 學齡兒童就學規則第十二條乃至第十四條ノ規定ハ本令第一條ノ傭主及師匠ニ對シテ適用ス

府令第六十二號 二十一年十一月

明治二十四年十一月 文部省令第十六號 第四條ニ基キ學齡兒童

保護者代人ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

學齡兒童保護者代人ニ關スル規則

第一條 學齡兒童ノ保護者ニ於テ就學義務ノ終ラサル兒童ヲ他ノ市町村ニ寄留セシムルカ爲メ其義務ヲ行フニ不便ナル場合ハ代人ヲ定メ町村長町村學校組合長若クハ市ノ區長ニ届出ヘシ

前項ノ届書ヲ受理シタル町村長等ハ直ニ兒童寄留地ノ町村長等ニ其保護者代人ノ氏名及住所ヲ通知スヘシ

第二條 學齡兒童ノ保護者ハ前條ノ場合ノ外特別ノ事情アルトキハ町村長町村學校組合長若クハ市ノ區長ノ許可ヲ受ケ代人ヲ立ツルコトヲ得

第三條 學齡兒童保護者ノ代人ハ其兒童就學義務ニ關シ

一切ノ事ヲ行フモノトス

第四條 前條ノ代人ニ於テ兒童ノ就學ヲ猶豫若クハ免除

セラルハ概テ左ノ場合トス

一 兒童ノ身体虛弱若クハ疾病ノ爲メ就學ニ堪ヘサルトキ

二 兒童ノ保護者其兒童ノ就學ニ關スル費用ノ支辨ニ堪ヘサルトキ

三 兒童ノ保護者前款ノ支辨ニ堪フルモ其兒童ヲ他人ノ傭若クハ徒弟トナスニアラサレハ生計ヲ立ツルコト能ハサルトキ

但他人ノ傭若クハ徒弟トナスモ兒童ノ原住地若クハ寄留地ニ於テ就學セシムルコトヲ得ヘキ場

合ハ猶豫若クハ免除セラル、ノ限リニアラス

前項第二款若クハ第三款ニ該當スル保護者ノ情況ニ關シテハ其代人ニ於テ保護者居住地ノ町村長等ヨリ証明書ヲ得之ヲ兒童寄留地ノ町村長等ニ提出スルヲ要ス

第五條 第一條ノ保護者代人ハ兒童寄留地ノ市町村立尋常小學校設置區域内ニ住居ヲ定メ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ者トス

第六條 第一條ノ場合ニ於テ保護者其代人ヲ定メサルトキハ兒童寄留地ノ町村長町村學校組合長若クハ市ノ區長ハ其兒童ノ寄留置主ヲシテ保護者ニ就キ之ヲ定メシムヘシ

第七條 第一條ノ保護者代人ニシテ其義務ヲ行ハサルト

キハ前條ニ依リ更ニ之ヲ定メシメ第二條ノ保護者代人ニシテ義務ヲ行ハサルトキハ其許可ヲ取消スモノトス

府令第六十四號 十一月二十六日

明治二十九年^{十一月}府令五十八號中畜牛ノ下ニ「及ヒ同國ヲ通過シ來ル畜牛」ノ十二字ヲ挿入ス

府令第六十五號 十一月二十八日

明治二十五年^{七月}本府令第四十六號同業組合取締規則第一條ニ掲ケタル種類營業者ニシテ未タ組合ニ加入セサルモノハ本令發布ノ日ヨリ七日以内ニ又新ニ開業スルモノハ其當日ヨリ七日以内ニ其種類組合ニ加入スヘシ違犯スルモノハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

府令第六十六號 十二月九日

明治二十七年八月府令第四十四號郡長委任條件中左ノ通
改正追加ス

一 第二十六 編籍願ノ件トアル編籍ノ上ニ親族ノ二字
ヲ冠入ス

一 第三十六 幼年戸主退隱願ノ件

府令第六十七號 九月十二日

幼年戸主退隱ノトキ及ヒ退隱若クハ廢嫡願濟ノ獨子女ヲ
シテ他家へ縁組、相續又ハ結婚セシムルトキハ豫メ其事由
ヲ具シテ出願スヘシ

府令第六十八號 十二月十六日

本年八月府令第三十六號中兵庫縣ノ下ニ和歌山縣ノ四字
ヲ挿入ス

府令第六十九號 十一月十九日

船車稅納人心得左記ノ通り相定メ明治三十年一月一日ヨ
リ施行ス

船車稅納人心得

第一條 地方稅ノ賦課ヲ受クヘキ船舶ノ定繫場ヲ府内ニ
定メタルトキハ定繫場所轄ノ郡區役所ニ願出檢査ヲ請
ヒ鑑札ヲ受クヘシ免稅船ヲ有稅船トナシタルトキモ亦
同シ

但西洋形船舶檢査規則ニ依リ檢査ヲ受クヘキモノハ
本條ノ檢査ヲ要セス

船舶ヲ修繕シ積量間數等ニ増減ヲ生シタルトキハ本條
ノ手續ニ依リ鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

免稅ノ船舶ハ本條ノ手續ニ依リ烙印ヲ受クヘシ

第二條

車ヲ新調シ又ハ府外ヨリ買受讓受ケタルトキハ所轄郡區役所ニ願出検査ヲ請ヒ烙印ヲ受クヘシ左記ノ場合モ亦同シ

一 有稅車ヲ免稅車ニ免稅車ヲ有稅車ニ變更シタルトキ

二 種類ヲ變更シタルトキ

三 修繕ヲ加ヘタルトキ

第三條

左記ノ場合ニ於テハ郡區役所ニ届出ツヘシ
但車ヲ賣買讓與シタルトキ車所有者ノ轉居シタルトキ船舶ノ定繫場ヲ變更シタルトキハ其買受人讓受人又ハ轉居地新定繫場所轄ノ郡區役所ニ届書ヲ差出ス

〜キモノトス

一 船車ヲ賣買讓與シタルトキ

二 船車所有者ノ住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ

三 船舶ノ定繫場ヲ變更シタルトキ

四 營業用人力車ヲ自用ニ自用人力車ヲ營業用ニ變更シタルトキ

免稅ニアラサル船舶ニシテ前項ニ該當スル場合ハ其鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

第四條

鑑札又ハ烙印ヲ亡失シ若クハ磨損シタルトキハ郡區役所ニ届出再渡鑑札又ハ烙印ヲ受クヘシ
亡失シタル鑑札ヲ發見シタルトキ又ハ磨損シタル鑑札ハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第五條 鑑札ハ日本形小船ハ該船ニ釘付トシ其他ノ船舶

ハ常ニ該船舶ノ見易キ所ニ掲ケ置クヘシ

第六條 船車ヲ亡失シ又ハ亡失シタル船車ヲ發見シタル

トキハ郡區役所ニ届出ツヘシ

第七條 左記ノ場合ニハ其前ニ受ケタル鑑札ヲ返納シ又

ハ烙印ノ取消ヲ請フヘシ

一 船車ヲ解廢シタルトキ

二 船舶ノ定繫場ヲ府外ニ變更シタルトキ

三 免稅船ヲ有稅船ニ有稅船ヲ免稅船ニナシタルトキ

四 車ヲ府外ニ賣渡又ハ讓渡シタルトキ

五 車所有者ノ府外ニ轉居シタルトキ

六 第二條第一號乃至第三號ニ該當スルトキ

第八條 前各條ニ依リ差出スヘキ願屆書ニハ船車ノ名稱、

種類、積量、間數、定繫場等ヲ記載シ且第一條但書ニ該當ス

ルモノハ該船舶検査証寫ヲ添ヘ其本証ヲ郡區長ニ提示

スヘシ

船車ヲ賣買讓與シタルニ由リ差出スヘキ屆書ニハ双方

連署スヘシ

前項ノ願屆書ハ郡ニアリテハ凡テ町村長ヲ經由スヘシ

第九條 第一條乃至第七條ニ違背シタル者ハ拾錢以上壹

圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十條 本則施行ノ際現ニ鑑札又ハ烙印ヲ受有セル船車

及船鑑札規則二十九年遞信省令第二十五號ニ依リ鑑札ヲ受有スル船舶ハ其

鑑札烙印ヲ以テ本則ニ定ムル鑑札烙印ニ代用ス

第十一條 地方税ノ賦課ヲ受ケサル在來ノ船車ニシテ明治三十年度ニ至リ新ニ其賦課ヲ受クヘキモノハ同年四月一日ニ於テ本則第一條第二條ノ例ニ準據シ鑑札又ハ烙印ヲ願受クヘシ

第十二條 從來牛車トシテ地方税ノ賦課ヲ受ケサル車ニシテ明治三十年度ニ至リ牛車税ノ賦課ヲ受クヘキモノハ前條ノ例ニ依ルヘシ

府令第七十六號 十二月二十四日

一般開業醫種痘ニ關スル件左之通之ヲ定ム

第一條 醫師ニシテ種痘ヲ行ヒ若クハ天然痘ニ罹リタルモノヲ治療シタル時ハ種痘規則第八條ニ據リ種痘ハ檢

痘天然痘ハ治癒ノ日ヨリ七日以内ニ其証書ヲ付與シ且ツ種痘ヲ受ケタルモノ、住所番戶族籍氏名年齢及ヒ初再三種善感不善感等ヲ檢痘ノ日ヨリ七日以内ニ市ハ區役所郡ハ町村役場ニ届出ツヘシ

第二條 種痘証若クハ天然痘証ニハ受痘者又ハ天然痘患者ノ住所番戶族籍氏名年齢及ヒ檢痘又ハ治癒ノ年月日並ニ主醫ノ住所番戶ヲ記シ其氏名ノ下ニ捺印スヘシ

第三條 醫師ヨリ種痘証若クハ天然痘証ヲ受ケタル者ハ種痘規則第六條ニ據リ七日以内ニ其証書ヲ添へ市ハ區役所郡ハ町村役場ニ届出ツヘシ

第四條 第一條第三條ノ期限内ニ届出ナサ、ルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

府令第七十七號

十二月二十五日

本年八月府令第三十六號中和歌山縣ノ下ニ奈良縣平群郡ノ六字ヲ挿入ス

府令第七十八號

十二月二十六日

陸軍六週間現役兵ニ關スル規程左ノ通相定ム

陸軍六週間現役兵ニ關スル規程

第一條 本府公立小學校ノ敎職ニ就キタル者ニシテ徵兵

令第十三條第三項ニ依リ六週間現役ニ服スヘキ者ハ速

ニ本籍地郡長若クハ市ノ區長北海道他府縣ヨリ寄留ノ者ハ寄留地郡區長第六條亦同シニ届出ヘ

シ

其届書ハ本籍地町村長北海道他府縣ヨリ寄留ノ者ハ寄留地町村長第六條亦同シヲ經由スヘシ

第二條 郡區長ニ於テ前條ノ届書ヲ領シタルトキハ其時

々之ヲ調査シ徵兵事務條例施行細則第一條式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り知事ニ差出スヘシ

其名簿備考區畫ニ卒業及敎職任命年月日寄留ノ者ハ住

所ノ區畫ニ本籍寄留地ヲ併記シ徵兵適齡經過ノ者ニ在

テハ假決ノ區畫ニ其適齡年以來徵兵ニ關シ受ケタル處

分事項ヲ記スヘシ

第三條 身體検査ノ日時場所及入隊號ハ知事ノ指示ニ依

リ郡長若クハ市ノ區長ニ於テ町村長ヲ經區長ハテ本人ニ

達スルモノトス

第四條 疾病傷痍若クハ其他ノ事故ニ由リ身體ノ検査ヲ

受ケ難キ者ハ検査當日迄ニ聯隊區司令官郡長ハ郡長ニ届出ヘ

シ其疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

本條ノ届書ニハ居住地市ノ區長若クハ町村長ノ奥書證
印ヲ受クヘキモノトス

第五條 疾病傷痍若クハ其他ノ事故ニ由リ入營期日ヨリ
三日以内ニ入營シ難キ者ハ速ニ知事郡ハ郡長
ヲ經テニ届出ヘシ其
疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ
本條ノ届書ニハ居住地市ノ區長若クハ町村長ノ奥書證
印ヲ受クヘキモノトス

第六條 第一條ノ届出ヲ爲シタル者入營迄ノ間ニ於テ教
職ヲ罷メ若クハ轉校又ハ住所身分氏名生年月日及兵主
ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ本籍地郡長若クハ市ノ區
長郡ハ本籍地町
村長ヲ經テニ届出ヘシ
第七條 郡區長ニ於テ前條ノ届書ヲ領シタルトキハ速ニ

其異動ヲ知事ニ報告スヘシ

第八條 國民軍幹部部適任證書ヲ授與セラレタルモノアル
トキハ知事ヨリ本籍地郡區長ニ達ス

郡長ニ於テ本條ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ通
達スヘシ

第九條 前條ノ者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若
クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル
トキハ速ニ其證書ヲ本籍地市ノ區長若クハ町村長ニ差
出スヘシ

區町村長ニ於テ本條ノ證書ヲ領シタルトキハ之ニ其事
由ヲ記シタル書面ヲ添郡ハ郡長
ヲ經テハ聯隊區司令官ニ移スヘシ

○明治九年 京都府令達要約

訓令第一號 十一月

警察部 警察署 同分署

明治二十八年二月二十八日訓令第二十二號文簿整理規則

第八條中ニ左之通追加ス

警察部管掌第一種本府廳達編冊ノ次ニ

一 警察報編冊

同上第四種交付録ノ次ニ

一 教習生申報編冊

一 教習生面接簿

一 教習生外出簿

一 教習生診斷簿

- 一 警察報原稿編冊
- 警察署分署管掌第一種本府訓令訓示編冊ノ次ニ
- 一 警察報編冊

訓令第三號

二十四日

郡役所 町村役場 町村組合 町村學校組合

水利組合

明治二十五年十二月甲第六十一號達町村事務報告事項左ノ通改正候條町村長及ヒ公共組合長又ハ管理者ハ其時々所轄郡長へ即報スヘシ

報告事項

- 一 議員選舉ノ結果及其選舉錄謄本
- 二 議員ノ退任死亡改氏名
但退任ハ其事由ヲ付記スヘシ

三 會議ノ開閉月日及其決議認定裁決處分并ニ其議事錄謄本

四 會議ニ對スル各種ノ報告

五 會議ノ議決執行停止及再議ニ附シタル事項并ニ其理由

但郡長ノ指揮ニヨル場合ハ此限リニアラス

六 議事細則ニ依ル議員ノ加罰處分

七 町村長助役收入役委員區長同代理者并ニ公共組合長選舉ノ顛末

八 同上吏員ノ就職退任死亡改氏名

但退任ハ其事由ヲ付記スヘシ

九 書記附屬員備員使了ノ類ヲ除クノ選任解職死亡改氏名

四

- 十 町村長助役分掌事務アルモノニ限ル 收入役及公共組合長又ハ管理者ノ事務受渡
 - 十一 町村長ニ於テスル懲戒處分并ニ訴願ノ裁決
 - 十二 滯納處分ノ景況
 - 十三 會議ノ議決ヲ經サル各種ノ規定
 - 十四 異常事件
- 右ノ外法律命令ニ依リ報告スヘキ事項ハ各其規定ニヨル
訓令第四號一 二十七日 郡役所
- 郡長ニ於テ町村又ハ公共組合事務ノ報告ヲ受ケ及郡長又ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ職權上町村又ハ公共組合ニ對スル處分ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ニ依リ直ニ當廳ヘ報告スヘシ

但明治二十四年七月訓第三十四號訓示ヲ取消ス

報告事項

- 一 町村長又ハ町村會ニ於テセシ訴願ノ裁決及水利組合會議員選舉ノ効力并ニ其資格ノ異議ニ對スル議決但訴願書又ハ異議申立書ヲ添附スヘシ
- 二 公民權ノ特免停止及町村費增加處分ニ關スル議決
- 三 財產ノ處分ニ關スル議決但第二十三項ノ報告ニ添附スヘキ議決書ヲ除ク
- 四 各種規定方法ニ關スル議決但前項ニ同シ
- 五 歳入出豫算外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ權利ノ棄却ヲ爲ス議決但前項ニ同シ
- 六 官吏ノ身元保証金ヲ定ムル議決
- 七 訴訟并ニ和解ニ關スル議決及其結果

- 八 各種ノ契約ニ關スル議決
- 九 償還期限三年以内ノ公債ヲ募集スル議決
- 十 區及區長代理者ノ設廢ニ關スル議決
- 十一 委員ノ設廢ニ關スル議決
- 十二 町村行政事務ヲ助役ニ分掌スル議決
- 十三 議事細則ニ依ル議員ノ加罰處分
- 十四 郡長ニ提出セシ町村會又ハ公共組合會ノ意見書
- 十五 郡長ノ諮問ニ對スル町村會又ハ公共組合會ノ答議書

- 十六 町村長ニ於テセシ町村吏員ノ懲戒處分
- 十七 議決ノ執行停止及再議ノ事項并ニ其理由
- 十八 町村長助役公共組合長ノ退任死亡改氏名但退任ハ其理由ヲ付記スヘシ

- 十九 收入役ノ認否及其退任死亡改氏名但認退任ハ其理由ヲ付記スヘシ
- 二十 町村長又ハ助役ニ收入役ノ兼掌セシムルノ許否并ニ其理由

- 廿一 收入役否認ノ結果トシテ臨時代理者ノ選任又ハ官吏派遣ノ顛末
- 廿二 國府縣郡ノ行政事務ヲ助役ニ分掌セシムルノ許否并ニ其理由

- 廿三 町村制第二百二十七條ニ依ル議決ノ許否并ニ其理由但議決ヲ添屬スヘシ

- 廿四 町村境界ノ變更及ヒ其變更ノ爲メニ要スル財產處分ノ議決

- 廿五 町村組合ノ設置解除并ニ其規約ノ改正加除

廿六強制豫算ノ命令并ニ其理由

廿七郡長又ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ職權上爲シタル訴願ノ裁決及町村吏員ニ對スル懲戒處分并ニ賠償裁決

廿八議員選舉ノ効力并ニ其資格ニ關スル處分
廿九町村會ニ代ツテ爲セシ議決事項并ニ其理由

三十異常事件

右ノ外法律命令ニ依リ報告スヘキ事項ハ各其規定ニヨル

訓令第五號 二十七日 京都市 上 京區役所

明治二十七年一月甲第九號市部地方稅賦課徵收事務取扱順序中左ノ通改正シ明治二十九年年度所屬ノ分ヨリ施行ス
第七條 商業ノ項中「步賃錢」ノ三字ヲ削ル

第八條 電燈業ニ係ル柱數及電氣鐵道業ニ係ル軌道間數

ハ市内布設ノ分ニ限リ實地ニ就キ調査シ届出ノ數ト照會シ若シ符合セサルトキハ速ニ現數ニ引直サシムヘシ

第十二條 第一中「電氣業共」ノ四字ヲ削ル
第四號式木製鑑札記載例ニ左ノ一項ヲ加フ

電燈業及電氣鐵道業ハ此錐形ニ依リ何等ノ處ヘ電燈業若クハ電氣鐵道業ト記載スヘシ

訓令第六號 二十七日 郡役所 町村役場

明治二十七年一月甲第八號郡部地方稅賦課徵收事務取扱手續中左ノ通改正シ明治二十九年年度所屬ノ分ヨリ施行ス

第九條第一項中「二月一日現在」ヲ「四月一日ヨリ同月三十日迄及十月一日ヨリ同月三十一日迄」ニ現在セル」ニ同

月「ヲ」翌月「ニ」改ム

第一號式備考第二項中「町村會ニテ設ケタルモノモ」ヲ「商工業第一類ニ在テハ上下兩半季ノ二部ニ分テ町村會ニテ設ケタルモノヲ」ニ改ム

第三號式表面ノ備考へ左ノ一項ヲ加フ

一 商工業ニ限リ業名ノ下へ第何類ト記入スヘシ

同號式裏面ノ備考第一項ヲ左ノ如ク改ム

一 商工業第一類ハ等級ノ欄ニ地位ノ等級ヲ記入シ税金ノ欄ハ記載セサルモノトス但新規開業者ニ限リ

當季ノ税額ヲ記入スヘシ

第四號式(甲)ノ備考へ左ノ一項ヲ加フ

一 町村會ニ於テ各個ノ課額ヲ議定スル迄ハ「課額未定」

ノ一欄ヲ設ケ朱書ヲ以テ總數ヲ記入シ置キ課額決定セハ更ニ相當欄内へ分割再記スヘシ

第五號式ノ備考へ左ノ二項ヲ加フ

一 商工業第一類等級課額未定ノ間ハ等級課額ノ欄内

へ「課額未定」ト記シ町村ノ總人員ヲ記載スヘシ但四

月又ハ十月中ノ廢業者及轉居者ニ對スル等級課額

ハ翌月分ニ於テ特ニ備考ヲ設ケ掲記スヘシ

一 税目町村名等級等ハ總テ其月異動ヲ生セシ分ノミ

ヲ掲記スヘシ但越員數ノ計小計ハ異動ナキ分ヲモ

通算シ某税又ハ某町村ノ總人員ヲ記載スルモノトス

第七號式(甲)(乙)中「兼業」ノ次ニ「字番」ノ一欄ヲ増設ス

訓令第十號 二月一日

郡役所

明治二十年甲第九十六號達相慶ス

訓令第十二號 二月七日

警察部 警察署 同分署

明治二十一年十一月二十二日警第七十六號達警察署警察

分署巡查派出所巡查駐在所勤務規程第七條ヲ删除シ以下
順次繰上ク

訓令第十五號 十二月八日

郡役所

郡長ニ於テ町村又ハ公共組合水利組合ヲ除クヨリ歳入出豫算及決算ノ報告ヲ受ケザルトキハ別紙様式ニ依リ豫算表ハ其年度四月三十日限り決算表ハ翌年度八月三十日限り當廳へ報告スヘシ

但追加變更豫算并ニ其年度内ニ於テ議決セシ豫算ハ三

ヶ月纏メトナシ七月十月一月四月ノ各五日迄ニ本文ノ様式ニ依リ報告スヘシ

(用紙美濃紙)

明治何年度何郡町村區組合歳入豫算(決算)取調表 (其一)

圓位ハ左線

何 村	何 町			町 村 區 組 合 名	財 産 ヨ リ 受 入 生 産 收 入	使 用 料 及 手 數 料	雑 收 入	前 年 度 繰 越 金	交 付 金	補 助 費	寄 附 金	公 債
	何 區	何 區	何 區									

考 備	合 計

(用紙美濃紙)

明治何年度何郡町村區組合歲出豫算(決算)取調表(其一)

圓位八朱線

町		何		町		何	
町		町		町		町	
經	計	臨	計	臨	計	臨	計

町村區組合名

別 役場費
(事務管
理費)
會議費
土木費
教育費
衛生費
救助費
警備費
勸業費
公債費

何			町						何	
村			何區			何區			何區	
計	臨	經	計	臨	經	計	臨	經	計	臨

(用紙美濃紙)

考 備	合 計			合々何町何 村々村外 學校組何			
	計	臨	經	計	臨	經	計

明治何年度何郡町村區組合歲出豫算(決算)取調表

(其二)

單位、米、圓

何町何 村組合	村			何		
	何區		何區		何區	
	計	臨	經	計	臨	經

町			何						
何區		町	何區			何村			
計	臨		計	臨	計	臨	計	臨	

町			何						町村區組合名
何區		町	何區			何村			別
計	臨		計	臨	計	臨	計	臨	
									諸稅及負擔
									雜支
									出基本財產蓄積
									町村基本財產
									學校基本財產
									合
									計
									收支差引
									金
									摘要

合計	何町村外何ヶ村組合			何町村外何ヶ村組合			村何區		
	計	臨	經	計	臨	經	計	臨	經

備考	計

記載例

- 一 用紙ハ美濃紙ヲ用ユルシ
- 二 科目ノ増設ヲ要スルトキハ其欄劃ヲ追設記入スヘシ
- 三 經濟ヲ異ニスル町村數同一ナル組合ニ個以上アルトキハ成ヘク各町村名ヲ明記シ欄内ニ記載シ能ハサル數町村ニシテ本表ノ如ク何町村外何ヶ村組合ト記スル場合ニハ組合毎ニ異ナル町村名ヲ冒頭ニ

- 顯ハスヘシ
- 四 金額ハ數字ヲ以テ記入シ千位ニ「、」ヲ附スヘシ
- 五 記入スヘキ事實ナキ欄ニ「」ヲ附スヘシ
- 六 決算取調表ニハ豫算ヲモ同欄内へ併記スヘシ其例
左ニ

歳入表ノ例

四位ハ朱線

何町村	決	豫
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃

歳出表ノ例

四位ハ朱線

何町村	計	臨	經
	決	豫	決
	〃	〃	〃
	〃	〃	〃
	〃	〃	〃
	〃	〃	〃
	〃	〃	〃
	〃	〃	〃
	〃	〃	〃
	〃	〃	〃
	〃	〃	〃

- 七 夫役現品ハ金員ニ換算記入シ備考欄内ニ其町村名
人員及種類數量ヲ掲クヘシ
但歳出表ニ在テモ金員ニ換算シテ其使用費目ニ
合算シ尙ホ備考欄内ニ本項區別ノ外其費途ニ分
ンテ掲記スヘシ
- 八 町村組合ニ於テ其町村税ヲ直接ニ賦課徴收セス之
ヲ町村ノ負擔トナシタルトキハ組合ノ歳入表町村
税ノ欄及町村ノ歳出表及負擔トノ欄ニ朱書スヘシ
- 九 町村組合ヨリ町村又ハ區ニ町村ヨリ區ニ補助ヲ爲
シタルトキハ組合又ハ町村歳出表補助金ニ對スル
款ノ欄及町村又ハ區ノ歳入表補助費トノ欄ニ朱書
スヘシ

十 豫算變更ノ場合ハ既定ノ豫算ニ比シ其増減額ノミ
 ナ表記ヲ増額ハ墨書減額ハ朱書スヘシ
 十一 歳入表町村税ノ計ハ朱書スヘシ
 十二 各表合計ニハ墨書朱書各別ニ合算シ合計欄ニ列記
 スヘシ

訓令第十六號 二十八月

郡役所 町村役場

明治二十三年十月甲第四十九號達中町村費決算調ニ係ル事
 項ハ之ヲ削除ス

訓令第二十一號 二十一月

警察部 警察署 同分署

司法事務上巡查ニ警部代理下命ノ義ハ從來辭令交付候處
 自今其必要ニ應シ署長限リ下命スヘシ

訓令第二十五號 二十七月

郡役所 警察署 監獄支署 尋常師範學校

尋常中學校 高等女學校 商業學校 簡易
 農學校 療病院醫學校 驅蠱院 驅蠱所

地方税經濟ニ屬スル各支部局帳簿式別冊ノ通相定メ明治
 二十九年年度所屬ヨリ施行ス

但郡役所警察署監獄支署各學校及驅蠱院ハ第一號式乃
 至第四號式ノ帳簿ヲ驅蠱所ハ第五號式及第六號式ノ帳
 簿ヲ設備スヘシ從前ノ訓示令達等ニシテ本訓令ニ牴觸
 スルモノハ各其施行ノトキヨリ廢止ス

經 費

第二號式

年月日	摘 要	遊 費 號	受		拂		残	
			圓	銭	圓	銭	圓	銭
明治何年	何何 本府ヨリ元受高		150	000			150	000
	何何 何費外何件				50	000	100	000
	何何 何費誤拂戻入ノ分				△0	500	100	500
	何何 旅費概算渡				10	000	90	500
	何何 旅費精算殘金返納ノ分				△0	000		
	俸 給				40	000	51	500
	備 考							
	一 經費地方稅雜收入ノ三口座ヲ設ケ各別ニ整理スヘキモノトス但							
	二 地方稅ノ口座ニ入ラサルモノハ郡役所ニ限ル							
	三 前項ノ口座ニ入ラサルモノハ雜部金ノ口座ヲ設ケ整理スルヲ要							
	四 地方稅及雜收入ハ何科目コトニ細別シタル口座ヲ設ケ整理スル							
	雜部金ハ取扱金ノ種類ニ依リ區分シ前項同斷							

△印ノ行ハ未嘗

明 治 何 年 度

第一號式

年月日	摘 要	遊 費 號	受		拂		残	
			圓	銭	圓	銭	圓	銭
明治何年	何何 何稅徵收高		199	950			199	950
	何何 何稅送納高				199	950	0	
	何何 經費元受高		150	000			150	000
	何何 經費仕拂高				50	000	100	000
	何何 經費戻入高				0	500	100	500
	何何 旅費概算渡				10	000	90	500
	何何 旅費返納高				1	000		
	何何 經費仕拂高						40	000
	何何 何稅本府ヨリ誤納下戻ノ分				1	200		
	何何 何稅何町村へ誤納下戻ノ分						1	200
	備 考							
	一 横綴式中一般ニ番號ノ記載例ヲ示サヘル母							
	實際記載スヘキモノトス							

旅 費

年月日	摘要	憑 証 番 號	概算高		精算高		残	
			圓	銭	圓	銭	圓	銭
明治何年	官兵名某所出張ニ付概		10	000			10	000
何何	算渡				9	000		
何何	同上精算高							
何△	同上精算残金返納ノ分		△10	000			0	

第四號書式

明治何年度概算渡整理簿

△印ノ行ハ赤字

俸 給

年月日	摘要	憑 証 番 號	豫算高		支出高		残	
			圓	銭	圓	銭	圓	銭
明治何年	豫算高		500	000			500	000
何何	官氏名外何名何年何月分				40	000		
何△	何費へ流用		△30	000			430	000
何何	何費ヨリ流用		10	000			440	000

第三號書式

明治何年度経費差引簿

三十一

△印ノ行ハ赤字

備考

- 一 豫算令違背ニ依リ科目コトニ口座ヲ設ケ整理スヘキモノトス
- 二 俸給ノ流用増減ハ流用増減ノ記載例ヲ示シタルニ過キス

第五號式 明治何年度受拂簿

三十二

経費ノ部		要受		拂		残	
年月日	憑書番號	摘要	受	拂	残	△印ハ朱書	
何年何月何日		本府ヨリ元受高	一五〇〇〇〇		一五〇〇〇〇		
同 何日		何費外何件		五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇		
△同 何日		△何費誤拂戻入ノ分		△〇△五〇〇〇	一〇〇〇〇〇		
同 何日		俸給		四〇〇〇〇	六〇〇〇〇		

備考 第二號式備考ヲ参照スヘシ
第六號式 明治何年度差引簿

俸給		要		残			
年月日	憑書番號	摘要	豫算高	支出高	残	△印ハ朱書	
何年何月何日		豫算高	五〇〇〇〇〇		五〇〇〇〇〇		
同 何日		職氏名外何名渡何年何月分		四〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇		
		△何費へ流用			△三〇〇〇〇		
同 何日		何費ヨリ流用	一〇〇〇〇		四〇〇〇〇		

三十三

備考 第三號式備考ヲ参照スヘシ

訓令第二十七號 二十九日

- 郡役所 警察署 監獄支署 尋常師範學校
- 尋常中學校 高等女學校 商業學校 簡易農學校 療病院醫學校 驅蠶院 驅蠶所
- 區役所

地方稅雜收入金收納手續別冊之通相定メ明治二十九年
所屬ヨリ第六條ハ明治二十八年所屬ヨリ施行ス

但本手續ニ牴觸スルモノハ總テ本訓令ノ施行ト共ニ廢
止ス

地方稅雜收入金收納手續

第一條 地方稅雜收入金ノ收納ハ本手續ニ依リ取扱フヘ
シ

第二條 各納人ノ納付スヘキ金額確定シタルトキハ第一

號式ノ納入告知書ヲ製シ(賦金ハ此限ニアラス)納入告知
書割印簿ト割印ノ上其納人ニ發スヘシ但現金ハ必ス爲
換方ニ拂込ニ其預リ切符ヲ以テ納入告知書ト共ニ納付
セシムヘシ

第三條 各納入ヨリ領受シタル金額ハ每一ヶ月取纏メ翌月三日以内ニ第二號式ノ送納書ニ第三號式ノ仕譯書ヲ添へ爲換方預リ切符ヲ以テ當廳ニ送納スヘシ

第四條 既納金額ノ内過誤納下戻等ヲ要スルモノアルトキハ第四號式ノ請求書ヲ當廳ニ差出スヘシ

第五條 既納金額ノ内科目違納換ヲ要スルモノアルトキハ第五號式ノ報告書ヲ當廳ニ差出スヘシ

第六條 一ヶ年度ノ收入ヲ完了シタルトキハ年度後二ヶ月以内ニ第六號式ノ皆濟書ヲ當廳ニ差出スヘシ

附 則

第七條 納入告知書割印簿ハ第七號式ニ依リ調製スヘシ

第八條 監獄收入ノ内雇工錢製品販賣代及療病院醫學校

收入金并ニ各學校授業料ニシテ本手續ニ依リ難キモノハ從來ノ取扱ニ依リ收入スルコトヲ得但當廳ニ送納方其他ニ關シテハ本手續ニ依ルヘシ

第一號式 縦四寸五分 横三寸三分 ノモノニ枚

納入告知書

第	何	號	納	人	何	某
明治何年度	地	方	税	雜	收	入
						何
						々
一金						
但						
右金額明治何年何月何日限リ當役所へ納付スヘシ						
明治何年何月何日						

領收證書

領收者 割印	第何號	納人	何	某
	明治何年度			
一金 但 右領收候也 明治何年何月何日				
何支部局長 氏 名印				

備考

- 一 總代人ニ發スルトキハ何某外何人總代人何某ト記スヘシ
 - 二 但書ハ賣拂タル品名等其目的ノ名稱ヲ記スヘシ
- 第二號式 縦四寸五分
横三寸三分 ノモノニ枚

送納書

第何號	地方稅	何支部局納	々
一金 右送納候也 明治何年何月何日			
何支部局長 氏 名印			

領收證書

領收者 劃印	第何號	地方稅	何支部局納
明治何年度雜收		入何	々
一金			
右領收候也			
明治何年何月何日			
京都府內務部第四課長屬氏名印			

備考
 一 項毎ニ區分(警察費雜入、土木費雜入、郡吏員給料旅費及廳中諸費雜入、

等ノ類)調製スヘシ
 二 預リ切符モ納付區分ニ依ル

第三號式

用紙半紙界紙(以下同シ)

第何號

(送納書ト同番ヲ付ス)

送納金仕譯書

一金何程

雜收入

科 目	節 目	單 價 員 數	金 額	要	
				摘	要
警察費雜入	巡查懲罰及賠償金				
	巡查給與品代返納金				
	不用品賣却代				
	合計				
	堤塘及道路敷使用料 堤塘竹木及並木枯損木賣却代				

土木費雜入		賦												金	
不用品賣却代	何々々	娼	貸	座	敷	袋座	敷附	加	小	小	方	紹	合	計	
		妓	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
		稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
		何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
		程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程

右之通候也
 明治何年何月何日
 何支部局長 氏 名印

備考

一 總テ計算ノ基ク所ヲ明ニシ單價ノ欄ニ之ヲ揭示スヘシ但同欄内ニ盡シ難キ
 場合ハ摘要ノ欄ニ於テ之ヲ詳ニスヘシ

第四號式

第何號

雜收入金過誤納還付請求書

一金何程

內 譯

何々々

金何程

是ハ明治何年何月何日第何號ヲ以テ送納(ノ内)何々
 ハ何々(事由詳記)ニ付下戻ヲ要スル分

何々々

金何程

何々々

是ハ何々

右請求候也

何支部局長 氏 名印

府知事宛

備考

- 一 賦金ハ規則第九條(三分ノ一三)及ヒ第十條ヲ區分記載スヘシ
- 二 事由ニハ細節迄ヲ記スヘシ

第五號式

第何號

雜收入金誤納納換報告書

一金何程

何々

是ハ明治何年何月何日第何號ヲ以テ送納(ノ内)何々ハ何々(事由詳記)ニ付納換ヲ要スル分

右報告候也

明治何年何月何日

何支部局長 氏 名印

府知事宛

第六號式

第何號

明治何年度地方稅雜收入金皆濟書

科	目										單	價	員	數	金	額	摘	要	
	巡査懲罰及 賠償金	巡査給與品 代返納金	代用品賣却	小計	何々	紙屑	反古	何々	何々	何々									何々

合	入 雜		費 木 土	
	何々々	細計	賣却代	舊道路其他
小	何々々	何々々	何々々	何々々
計	計	計	計	計
堤塘及道路 敷使用料				
道路				
堤塘				

以下此例ニ倣ヒ科目順ニ記載スヘシ
右明治何年度地方稅雜收入皆濟書面之通相違無之候也
明治何年月何日
何支部局長 氏 名印

府知事宛

備考

- 一 一廳ヨリ送納ニ係ル分ハ總テ本書ノ計算ニ入ルヘキモノトス
- 二 單價ノ欄内ニ盡シ難キモノハ摘要欄内ニ之ヲ詳ニスルモノトス
- 三 左ノ場合ニ於テハ總テ其人員金額并ニ事由等ヲ摘要欄内ニ掲クヘキモノトス
- 一 休業ニ依リ賦金ノ免除
- 一 明治十九年府令第三號第四十二條ノ處分ヲ受ケタルモノアルトキ
損失金

第七號式

明治何年度

納入告知書割印簿

何支部局長名

四十七

告知書 月日 番號	金額			納期 納人	顛末
	圓	錢	厘		
第 月 日 號	印			月 日 (納人氏名)	納 濟
第 月 日 號				月 日	
第 月 日 號				月 日	
第 月 日 號				月 日	
第 月 日 號				月 日	
第 月 日 號				月 日	
第 月 日 號				月 日	

訓令第二十八號 三 日月

監獄署各署非常報告心得

第一條 水火風震及反獄逃走等ノ事變アルトキハ典獄ハ其緩急ヲ量リ知事書記官警部長ニ急報スヘシ尤其狀況ニ依リテハ最寄警察署憲兵屯所及巡查派出所等ヘモ急報スヘシ

但支署ニアリテハ支署長ハ其地ノ警察署等ニ急報シ速ニ電信又ハ郵便ヲ以テ監獄署長ヲ經由シ申報スヘシ

第二條 前條ノ事變急迫ノ場合ニアリテハ典獄(支署ニアツテハ支署長)ハ警鐘ヲ連打セシメ以テ一般ニ報知スヘシ

第三條 非常事變ニ際シ指揮命令ニ便ナラシムル爲メ典